

共用品・共用サービス国際調査 報告書

2023年3月31日

公益財団法人 共用品推進機構

目次

	ページ
令和 4～6 年度 共用品・共用サービス国際調査 調査計画書	2
令和 4 年度 共用品・共用サービス国際調査 調査報告書	3
1. 実施事項	3
2. 期間	3
3. 方法	3
3.1 調査者、調査国	3
3.2 調査方法	3
3.3 調査項目	4
4. 調査結果	5
4.1 国別の状況	6
4.2 配慮がある製品	23
4.3 障害者・高齢者等に便利な交通機関、サービス等	24
4.4 共用品・共用サービスに関連する団体	25
5. まとめ	26
6. 調査データ	31
6.1 アジアを中心とした 12 か国調査	31
6.2 アジア 9 か国調査	57
6.3 スウェーデン調査	79

令和4～6年度 共用品・共用サービス国際調査 調査計画書

(1) 調査実施の背景

共用品（アクセシブルデザイン）の国内市場規模は、2020年度時点で3兆円に達している。共用品の利便性は日本だけにとどまらず、国際的にも通用する。それは、2001年に日本から国際提案した、製品・サービスの高齢者・障害者関連配慮規格が承認されたことでも明らかである。しかし、共用品（アクセシブルデザイン）がどのような形で海外に浸透しているかは、把握できていない。

そこで本調査事業では、初めに、共用品・共用サービスがどの国でどのように普及しているかを、国際障害者団体等を通じて調べる。次に、その結果をもとにして、普及が進んでいる国の推進機関と連携しながら、各地域や国で共用品・共用サービスを普及させるためのポイントを確認する。さらに、そのポイントを文書化し、各地域や国で共用品・共用サービスを推進させる組織が行うべき事項について、ガイドラインとしてまとめる。ガイドライン作成を本調査事業の最終目的とする。

(2) 実施事項とスケジュール

令和4年度

- 1) 各国での共用品・共用サービスの普及状況を確認する。どの国でどのように共用品・共用サービスが普及しているかを、国際障害者団体（または各国の障害者団体等）を通じて調べ、報告書としてまとめる。

令和5年度

- 2) 令和4年度に行った調査から、共用品・共用サービスの普及を促進している要素、阻んでいる要素を確認し、阻害要因に関しては、その解決策を検討する。
- 3) 確認した要素をもとに、共用品・共用サービスを普及させるための組織にとって必要な事項を整理し、共用品・共用サービス普及機関運営ガイドライン（案）を作成する。

令和6年度

- 4) ガイドライン（案）を関心のある機関と共有し、ブラッシュアップをはかる。
- 5) 調査・普及に関して、情報共有が行える仕組みを検討し構築する。
- 6) 国際ネットワークを構築するための準備を行う。

令和4年度 共用品・共用サービス国際調査 調査報告書

1. 実施事項

今年度は、各国での共用品・共用サービスの普及状況を確認した。どの国でどのように共用品・共用サービスが普及しているかを、国際障害者団体（または各国の障害者団体等）を通じて調べた。

2. 期間

2022年4月～2023年3月 （※一部調査 2021年10月～）

3. 方法

3.1 調査者、調査国

共用品・共用サービスに関して経験や実績があり、国内外の障害当事者や障害者団体とも交流のある人に調査を依頼した。※敬称略

- ・ 呂曉彤（帝京科学大学 教授）
→中国

- ・ 新井愛一郎（社会福祉法人国際視覚障害者援護協会 事務局長） 芳賀優子（同協会 会員）
→アジアを中心とした12か国
中国、台湾、韓国、モンゴル、タイ、ミャンマー、ベトナム、マレーシア、
インドネシア、ネパール、キルギス、ケニア

- ・ 佐野竜平（法政大学現代福祉学部 教授）
→アジア9か国
モンゴル、ベトナム、フィリピン、マレーシア、シンガポール、インドネシア、
インド、ネパール、パキスタン

- ・ 高橋良至（東洋大学ライフデザイン学部人間環境デザイン学科 教授）
→スウェーデン

3.2 調査方法

国情や環境に合わせて、以下の中から調査方法を選択した。

現地での観察、現地関係者からの聞き取り、インターネットを用いた調査、オンラインでのインタビュー、質問紙による回答

3.3 調査項目

1) 表示に関する配慮がある製品の有無

(現地のスーパーマーケット、コンビニエンスストア、小売店、通販等で手に入る製品)

- ① 同じ形状の中身が異なる容器で、触ってその違いが分かる包装容器 (各種パッケージ)
 - ・ (例) 側面、上部等に、ギザギザがあつてリンス容器と識別できるシャンプー容器
 - ・ (例) 点字が表示されている各種包装容器 (調味料、ジャム等)
- ② 見やすい表示の包装容器 (各種パッケージ)
 - ・ (例) 表示されている文字が通常より大きく書かれている包装容器
 - ・ (例) 表示されている文字のコントラストがはっきりして見やすい包装容器
- ③ 凸が付いた家電製品、事務機械 (コピー機・複合機等)、情報機器 (スマートホン、パソコン等)
 - ・ (例) ON側に凸が付いているスイッチ
- ④ 視覚的な表示だけでなく、光や振動で各種事項を知らせる機器 (タイマー、体温計 等)
- ⑤ 視覚的な表示だけでなく、音や音声で各種事項を知らせる機器 (家電製品、ATM、自動券売機等)

2) 操作に関する配慮がある製品の有無

(現地のスーパーマーケット、コンビニエンスストア、小売店、通販等で手に入る製品)

- ① 視覚に障害があつても操作できる家電製品、日常生活用製品、設備機器
- ② 聴覚に障害があつても操作できる家電製品、日常生活用製品、設備機器
- ③ 車椅子使用でも操作できる家電製品、日常生活用製品、設備機器
- ④ 上肢に障害があつても操作できる家電製品、日常生活用製品、設備機器

3) 障害者・高齢者等に便利な交通機関、サービス等

- ① 障害者・高齢者等に便利な交通機関
- ② 障害者・高齢者等に便利なサービス等

4) 共用品・共用サービスに関連する団体

- ① 共用品・共用サービスの普及を行っている団体
障害者団体、高齢者団体、NPO、公的機関、業界団体、企業等
- ② 共用品・共用サービスの販売を行っている団体
障害者団体、高齢者団体、NPO、公的機関、業界団体、企業等

4. 調査結果

本調査により、17 か国について計 23 件のデータを得た。

<内訳>

地域・国名		件数
東アジア		
1	中華人民共和国（中国）	2
2	中華民国（台湾）	1
3	大韓民国（韓国）	1
4	モンゴル国（モンゴル）	2
東南アジア		
5	タイ王国（タイ）	1
6	ミャンマー連邦共和国（ミャンマー）	1
7	ベトナム社会主義共和国（ベトナム）	2
8	フィリピン共和国（フィリピン）	1
9	マレーシア	2
10	シンガポール共和国（シンガポール）	1
11	インドネシア共和国（インドネシア）	2
南アジア		
12	インド共和国（インド）	1
13	ネパール連邦民主共和国（ネパール）	2
14	パキスタン・イスラム共和国（パキスタン）	1
中央アジア		
15	キルギス共和国（キルギス）	1
アジア以外		
16	スウェーデン王国（スウェーデン）	1
17	ケニア共和国（ケニア）	1
合計		23 件

調査データの詳細は第 6 章に記載し、本章では、4.1 で調査データを国別に整理、4.2～4.4 で一覧表にまとめた。

4.1 国別の状況

国ごとに調査データを整理し、表 4-1～表 4-17 に示す。1 国に 2 件のデータがある場合は、それぞれを整理して併記した。

表 4-1 中国

項目	①女性、日本在住	②女性、50 代、全盲、天津在住
1) ①触って中身の違いが分かる包装容器	<ul style="list-style-type: none"> ・シャンプー、リンスなど特に識別されていないようだ。 ・包装は簡素化の動き。 	<ul style="list-style-type: none"> ・シャンプー、リンス、ボディソープのギザギザがついているものを見たことがある。 ・メーカーによって、ふたの形の違いで液体洗剤と柔軟剤が触ってわかる。
1) ②見やすい表示の包装容器	<ul style="list-style-type: none"> ・食料品の包装には見やすさの配慮がある。日用品は遅れている印象。 	<ul style="list-style-type: none"> ・大きな文字やコントラストのはっきりした表示のパッケージがある。(菓子、調味料等)
1) ③凸が付いた家電、事務機械、情報機器	<ul style="list-style-type: none"> ・配慮はあまり感じられない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ON に点や線がついた電気製品がある。 ・エアコンのリモコンに凸点。
1) ④視覚的表示 + 光や振動で知らせる機器	<ul style="list-style-type: none"> ・北京の PCR 会場に音声案内する機械があった。 ・銀行 ATM やホテルのエレベータボタン等の点字表記。 	<ul style="list-style-type: none"> ・中国の SNS の視覚障害者向け買い物サービスの広告に、製品紹介のページがある。 ・パソコンの電源スイッチが、触って電源だとわかる形になっている。 ・ATM はすべてタッチパネルで、使えない。 ・中国の洗濯機はタッチパネル主流で困る。
1) ⑤視覚的表示 + 音や音声で知らせる機器		
2) ①視覚に障害があっても操作できる家電、生活用品、設備機器		
2) ②聴覚に障害があっても操作できる家電、生活用品、設備機器	—	—
2) ③車椅子使用でも操作できる家電、生活用品、設備機器	<ul style="list-style-type: none"> ・スーパーの通路は車椅子が通れるように、商品が見やすくできている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ドラム式洗濯機が普及してきている。
2) ④上肢に障害があっても操作できる家電、生活用品、設備機器	—	—
3) ①障害者・高齢者等に便利な交通機関	—	<ul style="list-style-type: none"> ・スマホアプリで呼べるタクシー。 ・地下鉄は、手帳提示で無料の特別切符を発行。誘導サービスあり。 ・鉄道は自分で切符を買うが、窓口で手伝いを頼める。 ・飛行機は、予約時に告げるとバリアフリーのサービスを受けることができる。 ・バスが一番使いにくい。
3) ②障害者・高齢者等に便利なサービス等	—	<ul style="list-style-type: none"> ・肢体不自由の家の改築に政府の補助金が出るようになった。
4) ①共用品・共用サービスの普及を行っている団体	<ul style="list-style-type: none"> ・高齢者が健康で長生きできるよう、社会全体のバリアフリー化などへ取り組んでいる団体はあるようだ。 ・企業(ファーウェイ、ユニクロ)など、支援金・寄付金・慈善事業・障害者雇用の制度で普及させる動きはあるようだ。 	<ul style="list-style-type: none"> ・UD やバリアフリーというよりは、各障害別の対応を考えるようなイメージ。政府で統括しているところはない。上の誰かの一時的な気持ちでやっている感じ。その人が異動すると全てが終わる。 ・中国では、「専門家が言っていることは正しい」という考え。障害者の意見や実態調査はされていない。
4) ②共用品・共用サービスの販売を行っている団体		

「—」～ なし/不明/未確認

表 4-2 台湾

項目	①男性、50代、全盲、台北在住
1) ①触って中身の違いが分かる包装容器	・ない。視覚障害者の団体から声が上がらないと、会社がやってくれない。
1) ②見やすい表示の包装容器	・会社によって大きく書いてくれるところはあるが、弱視にとって見やすいという配慮ではない。法律では特に規定はない。
1) ③凸が付いた家電、事務機械、情報機器	・自分は日本製品を使っているため、スイッチの ON に点がある。 ・台湾の会社でも例えばリモコンは ON/OFF の凸表示がある。 ・台湾では、タッチパネルの製品が主流。
1) ④視覚的表示+光や振動で知らせる機器	・体温計などは日本製や中国製の音声になっているものを買う。台湾製もあるかもしれない。
1) ⑤視覚的表示+音や音声で知らせる機器	・ATMは3万あるうち、音声のものは、800か900ぐらい。 ・バリアフリーの法律はあるが、ハードの整備が主で、情報機器にはあまりない。障害者団体からの声がないとやってくれない。
2) ①視覚に障害があっても操作できる家電、生活用品、設備機器	—
2) ②聴覚に障害があっても操作できる家電、生活用品、設備機器	—
2) ③車椅子使用でも操作できる家電、生活用品、設備機器	—
2) ④上肢に障害があっても操作できる家電、生活用品、設備機器	—
3) ①障害者・高齢者等に便利な交通機関	・窓口で申し出れば案内誘導をしてくれる。特に地下鉄は前から障害者への対応があり、地下鉄を使う視覚障害者が多かった。 ・障害者用のバスに予約を入れて乗る。予約時に言えば、来てくれる。会社が国から補助金をもらう仕組み。台北だからできるが、地方では難しいと思う。 ・交通系カードは操作が簡単なので、全盲でも一人でできる。 ・交通機関は案内誘導をしてくれる。社員教育もしている。
3) ②障害者・高齢者等に便利なサービス等	・店は、社員教育というより経営者の考えや個人の考えによる。 ・同行援護サービスのような制度がある。自己負担は三分の一、病院に行くときなどはそのサービスを利用する。
4) ①共用品・共用サービスの普及を行っている団体	・共用品を広める団体はない。バリアフリーの法律があるが、個人で動いてもできないので、議員を通すなどが必要。
4) ②共用品・共用サービスの販売を行っている団体	・障害者団体と地方行政との委員会があるので、そこで要望を出す。 <調査者補足> 国連に参加できない台湾では、世界の国々と連帯して、障害者権利条約を実施したいと、特別な仕組みをつくっている。5人の委員からなる国際審査委員会を設け、国や市民社会からの文書報告と対面審査を経て、総括所見をえている。

「—」～ なし/不明/未確認

表 4-3 韓国

項目	①男性、50代、全盲、ソウル在住
1) ①触って中身の違いが分かる包装容器	<ul style="list-style-type: none"> ・ビール缶や飲料水の点字表示を見たことがある。 ・シャンプーとリンス、調味料など容器が似ていて中身が違うパッケージについては、パッケージに掛けられるシリコンのフタを、国と障害者団体が配っている。無料でもらえるが、調味料のフタは使いにくい。 ・大手企業では、自社で区別する印をつけていることもある。
1) ②見やすい表示の包装容器	<ul style="list-style-type: none"> ・工夫はあると思うが、障害者よりも老人の課題のほうが先。
1) ③凸が付いた家電、事務機械、情報機器	<ul style="list-style-type: none"> ・電気をつけるときオンのところに触ってわかる表示があった。 ・電話機の「5」にも点があった。
1) ④視覚的表示+光や振動で知らせる機器	<ul style="list-style-type: none"> ・障害者用の音声体温計はある。 ・ATMは、指紋認証のタッチ式で、ボタンがついている。10年前は、電話の子機タイプの音声ガイダンスがついている機械が多かったが、今は受話器がなくなり、持参のイヤホンを差し込むと、音声ガイダンスモードになる。韓国はカード決済が90%なので、ATMを使わなくても送金等ができる。
1) ⑤視覚的表示+音や音声で知らせる機器	<ul style="list-style-type: none"> ・いくつかの機能がまとめて入っているカードがあり、税金の還付もカードに振り込まれる。 ・タッチパネル化が進み、最近法律で視覚障害者のために音声をつけて利用できるようにしようという動きも出てきている。
2) ①視覚に障害があっても操作できる家電、生活用品、設備機器	<p style="text-align: center;">—</p>
2) ②聴覚に障害があっても操作できる家電、生活用品、設備機器	<p style="text-align: center;">—</p>
2) ③車椅子使用でも操作できる家電、生活用品、設備機器	<ul style="list-style-type: none"> ・マンションの部屋のドアはバータイプになり、肢体不自由や老人が腕にかけて開けられるようになった。室内段差も減り、ユニットバスにも手すりがつけられるようになってきた。建築の法律が関係しているように思われる。 ・肢体不自由者にとってはATMの高さが高すぎるのが問題になっている。高さの調節などが検討されている。
2) ④上肢に障害があっても操作できる家電、生活用品、設備機器	<ul style="list-style-type: none"> ・ノンステップバスは増えてきたが、バスは使いにくい。 ・地下鉄は視覚障害者と付き添い者が無料。そのため、地下鉄を利用する人が多い。 ・自治体によって、タクシー券や車両への配慮がある。
3) ①障害者・高齢者等に便利な交通機関	<ul style="list-style-type: none"> ・国が管轄しているところは教育をしていると思うが、日本と同じ程度のサービスまで行っているかどうかわからない。
3) ②障害者・高齢者等に便利なサービス等	<ul style="list-style-type: none"> ・政府系の機関と各障害者団体が研究会をつくっていると思う。
4) ①共用品・共用サービスの普及を行っている団体	<p><調査者補足></p>
4) ②共用品・共用サービスの販売を行っている団体	<p>国が会社と障害者団体の間に入り、障害者のためのことをしたら、税金の減免などの優遇があるという制度がある。</p>

「—」～ なし/不明/未確認

表 4-4 モンゴル

項目	①女性、30代、弱視、ウランバートル在住	②（調査者からの報告）
1)①触って中身の違いが分かる包装容器	・ない。商品や食品に点字もついていない。	—
1)②見やすい表示の包装容器	・ない。日本のような合理的配慮は、モンゴルではみんなわかっていない。	—
1)③凸が付いた家電、事務機械、情報機器	・モンゴルの家電はだいたい輸入品。輸入品は配慮があるが、モンゴルの会社のものではない。	—
1)④視覚的表示+光や振動で知らせる機器	・日常生活用具の福祉制度があり、視覚障害者のためのものには触ってわかる印があったり、音声案内がついていたりする。体温計、血圧計、腕時計など。（洗濯機には日本のような点字はついていない。）	—
1)⑤視覚的表示+音や音声で知らせる機器	・ATMはタッチパネルなので使えない。	—
2)①視覚に障害があっても操作できる家電、生活用品、設備機器	—	—
2)②聴覚に障害があっても操作できる家電、生活用品、設備機器	—	—
2)③車椅子使用でも操作できる家電、生活用品、設備機器	・横から入れる洗濯機はあったような気がする。	・レータス社は、車いす用階段昇降機などの機器を提供。
2)④上肢に障害があっても操作できる家電、生活用品、設備機器	—	—
3)①障害者・高齢者等に便利な交通機関	・障害者には無料パスが配布されているので、券売機で切符を買うことはない。遠くに電車で行くときには、窓口で買う。 ・バスには車内アナウンスが流れるようになった。バスの外に流れる行先アナウンスはないのが不便。 ・交通の人的なサービスはない。	・公共交通機関には、障害者や高齢者のためのアイコンがついた座席がある。 ・公共交通機関を無料で利用できること。
3)②障害者・高齢者等に便利なサービス等	・銀行等では、ところどころに係員を配置し始めた。 ・視覚障害者が多くいく個人店舗は適切にサービスしてくれるが、大きなスーパーなどはやっていない。	—
4)①共用品・共用サービスの普及を行っている団体	・共用品をひろめたり、研究したりしている団体や人はいない。	—
4)②共用品・共用サービスの販売を行っている団体	—	—

「—」～ なし/不明/未確認

表 4-5 タイ

項目	①男性、40代、弱視、バンコク在住
1)①触って中身の違いが分かる包装容器	<ul style="list-style-type: none"> ・少ないが、シャンプーに印をつけているところがある。昔は、リンスとシャンプーのボトルの形を変えているところもあった。 ・歯磨き粉に点字表示がついたメーカーもある。
1)②見やすい表示の包装容器	<ul style="list-style-type: none"> ・あるが、UDの観点で大きくははっきり書いてあるのかどうかはわからない。
1)③凸が付いた家電、事務機械、情報機器	<ul style="list-style-type: none"> ・洗濯機のオンのボタンが他のボタンよりも大きくて、真ん中に点がついていて区別しやすい。
1)④視覚的表示+光や振動で知らせる機器	<ul style="list-style-type: none"> ・光・振動・音などがついたものは見つけるのが難しい。 ・タイの10パーツ硬貨に点字がついているが、小さすぎてわからない。
1)⑤視覚的表示+音や音声で知らせる機器	<ul style="list-style-type: none"> ・日本のメーカーの家電製品に点字がついているが、タイ人には読めない。 ・ATMはボタンとタッチパネル両方がついた機種だが、点字や音声がない。みんな、ボタンの位置や順番を覚えて使っている。
2)①視覚に障害があっても操作できる家電、生活用品、設備機器	<ul style="list-style-type: none"> ・オンラインバンキングは、音声アプリに対応しているので使える。 ・オンライン決済が多くなった。政府が支援や補助をしているのだと思う。
2)②聴覚に障害があっても操作できる家電、生活用品、設備機器	—
2)③車椅子使用でも操作できる家電、生活用品、設備機器	<ul style="list-style-type: none"> ・ドラム式はあるが、上から入れる機種よりも高い。
2)④上肢に障害があっても操作できる家電、生活用品、設備機器	<ul style="list-style-type: none"> ・オンラインの通信販売で、手の不自由な母のために、キャップを開けやすくする道具を買った。
3)①障害者・高齢者等に便利な交通機関	<ul style="list-style-type: none"> ・電車が一番使いやすい。エレベータやアナウンス、点字ブロックもある。 ・切符を買うときに駅員などにアテンドをしてもらう必要がある。昔事故があったので、誰かと一緒に行くのが鉄道会社のルールになっている。アクセシビリティを整備しても、一人では行かせないルールが存続している。 ・バスはアナウンスがないので使いにくい。
3)②障害者・高齢者等に便利なサービス等	<ul style="list-style-type: none"> ・頼めばやってくれる。トレーニングはしていない感じ。担当者の善意でやっている。視覚障害者から、このようにサポートしてほしいと言わない限り、うしろから押して連れて行ったりされることもある。
4)①共用品・共用サービスの普及を行っている団体	<ul style="list-style-type: none"> ・いくつかの大学が一緒になって、UDセンターをつくっている。国連の障害者条約に加盟したので、その年である2008年からUDが意識されるようになった。 ・新しく建てられる建物にアクセシビリティの基準がつけられるようになった。(音声信号機、歩道と車道の段差がスロープ等) ・人口の20%が高齢者だが、タイの伝統的な社会風習と、UDの考え方が違うことによるギャップが課題。(目上の人には上の階、でもUD的には下の階がアクセシブル。高齢者の部屋のドアや窓が直線状に配置されるのは、社会通念上は風が吹き抜け直接当たるので良くないが、UD的には円滑に移動できるので良いなど。)
4)②共用品・共用サービスの販売を行っている団体	<ul style="list-style-type: none"> ・政府系のサイトよりも、民間会社のサイトのほうが、アクセシブル。 ・タイでは、日本に行っているいろいろなことを取り入れることが多い。

「—」～ なし/不明/未確認

表 4-6 ミャンマー

項目	①女性、50代、全盲、日本在住
1)①触って中身の違いが分かる包装容器	<ul style="list-style-type: none"> ・ミャンマーでは盲学校の寮に入っていたので、買い物の経験があまりない。 ・日本のように袋や箱に入っているのではなく、市場で売っていたり行商の人が売りに来たりするので、触って確かめる。 ・町に行けばスーパーがあるが、パッケージに印はない。
1)②見やすい表示の包装容器	—
1)③凸が付いた家電、事務機械、情報機器	<ul style="list-style-type: none"> ・電気製品等に、視覚障害者のための印や点字はついていなかった。 ・パソコンは日本製を使い、ミャンマー製は使ったことがない。たぶん、JとFは点がついているのではないかと思う。
1)④視覚的表示+光や振動で知らせる機器	<ul style="list-style-type: none"> ・今の状況を聞くと、銀行の通帳ができて通帳とATMを使い始めているが、視覚障害者だけで利用するのは難しいようだ。
1)⑤視覚的表示+音や音声で知らせる機器	
2)①視覚に障害があっても操作できる家電、生活用品、設備機器	—
2)②聴覚に障害があっても操作できる家電、生活用品、設備機器	—
2)③車椅子使用でも操作できる家電、生活用品、設備機器	—
2)④上肢に障害があっても操作できる家電、生活用品、設備機器	—
3)①障害者・高齢者等に便利な交通機関	<ul style="list-style-type: none"> ・切符は、電車の駅で駅員から買う。駅がちゃんとしていないので、視覚障害者一人では利用が難しいと思う。ホームから電車は3段ぐらい高い。ホームの安全を確認しないで走ってしまうので、見える人と一緒にないと乗れない。
3)②障害者・高齢者等に便利なサービス等	<ul style="list-style-type: none"> ・会社などで仕事をしている人が、障害のある人にサービスをしてくれることはない。「なんで一人で来るのか？」と言われることもある。家族や近所の人や知り合いと一緒にないと、利用が難しい。
4)①共用品・共用サービスの普及を行っている団体	—
4)②共用品・共用サービスの販売を行っている団体	—

「—」～ なし/不明/未確認

表 4-7 ベトナム

項目	①男性、40代、弱視、ホーチミン在住	②（調査者からの報告）
1)①触って中身の違いが分かる包装容器	・ベトナム製品では見たことはない。	・シャンプーやコンディショナーの容器は見た目が全く同じで、触ってもわからない。
1)②見やすい表示の包装容器	—	—
1)③凸が付いた家電、事務機械、情報機器	・スイッチに印がついているものがある。	・点字つきボタンのエレベータもあるが、音がないので、視覚障害者にはわからない。
1)④視覚的表示+光や振動で知らせる機器	・開けると音が出るペダル式ごみ箱。 ・ベトナム製電気製品は、点字なし。	—
1)⑤視覚的表示+音や音声で知らせる機器	・スイッチで、音が鳴るものがある。 ・テレビにスマートホンをつなぐと、操作などを音声で読んでくれる。 ・ほとんどの人が、音声アプリ付きのスマートホンを持っている。文字の拡大や音声読み上げができる。 ・視覚障害者はATMを使えないが、携帯の銀行アプリで振込などはできる。 ・店は現金でも、スマホアプリやQRコードでも払える。 ・電子化が進み視覚障害者には格段に便利になった。新聞もスマートホンで読める。	—
2)①視覚に障害があっても操作できる家電、生活用品、設備機器	—	・家電製品に文字や画像が書かれているので、見てわかる。
2)③車椅子使用でも操作できる家電、生活用品、設備機器	—	・地元の店には車椅子で使える家電がほとんどない。
2)④上肢に障害があっても操作できる家電、生活用品、設備機器	—	—
3)①障害者・高齢者等に便利な交通機関	・バスが便利、障害者割引がある。スマホアプリで、情報が音声でわかる。 ・バスアプリ、タクシーアプリ、買い物アプリ等があり、決済もできる。	・都心の大通りには触覚舗装が施されているところもあるが、すべてではない。信号機には、渡れるかどうか知らせるための音がない。
3)②障害者・高齢者等に便利なサービス等	・声をかければ教えてくれる。市役所でサポートが受けられるようになった。 ・障害者のための各種制度がつけられた。健康診断を優先的に受けられる制度もあるが、車椅子利用者と全盲だけが対象。	・障害者や高齢者用に知恵を絞った商品・サービスがない。
4)①共用品・共用サービスの普及を行っている団体	・ないと思う。盲人協会は、視覚障害者のためのことだけで、政府にUDをやってほしいというようなことはしていない。遠慮していると思う。	—
4)②共用品・共用サービスの販売を行っている団体	—	—

「—」～ なし/不明/未確認

表 4-8 フィリピン

項目	① (調査者からの報告)
1) ①触って中身の違いが分かる包装容器	—
1) ②見やすい表示の包装容器	—
1) ③凸が付いた家電、事務機械、情報機器	—
1) ④視覚的表示+光や振動で知らせる機器	—
1) ⑤視覚的表示+音や音声で知らせる機器	・ ATM、エレベータ。
2) ①視覚に障害があっても操作できる家電、生活用品、設備機器	・ エレベータ、ATM、パソコン、時計、スマートフォン。
2) ②聴覚に障害があっても操作できる家電、生活用品、設備機器	—
2) ③車椅子使用でも操作できる家電、生活用品、設備機器	—
2) ④上肢に障害があっても操作できる家電、生活用品、設備機器	—
3) ①障害者・高齢者等に便利な交通機関	・ 歩道は車椅子では通行できない。 ・ ジープニーをバリアフリーにする案もあったが実現せず。障害者とその家族が、車椅子使用者のために三輪車をデザインし、即興で作っている。
3) ②障害者・高齢者等に便利なサービス等	・ 障害者・高齢者が専用に優良商品を購入する場合、5%の割引が適用される。
4) ①共用品・共用サービスの普及を行っている団体	・ Resources for the Blind, Physicians for Peace, Walk and Work, ATRIEV, Davao Jubilee Foundation, Tahanan Walang Hagdanan (House with No Steps), International Deaf Education Association (IDEA), Philippines ・ National Council on Disability Affairs (フィリピン障害者問題審議会)
4) ②共用品・共用サービスの販売を行っている団体	・ House with No Steps ・ 個人で販売している会社もある。Shopee や Lazada などのオンラインプラットフォームで商品を購入することができる。

「—」～ なし/不明/未確認

表 4-9 マレーシア

項目	①男性、40代、弱視、クアラルンプール在住	②（調査者からの報告）
1)①触って中身の違いが分かる包装容器	<ul style="list-style-type: none"> ・マレーシアの会社ではない。日本の会社から輸入したものなら少しだけある。 ・点字表記もマレーシアにはない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・現地で販売されている製品には、区別するのに役立つ点字ラベルやマークが付いたパッケージはなかった。
1)②見やすい表示の包装容器	<ul style="list-style-type: none"> ・飲み物などの大きなパックでは大きな文字があるが、コントラストの配慮はない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・視覚障害を持つ消費者ではなく、一般消費者向けに作られる。
1)③凸が付いた家電、事務機械、情報機器	<ul style="list-style-type: none"> ・オンに点がついた商品や、オンオフでボタンの大きさが異なる商品がある。 ・国産パソコンのJとFに点がついている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・スイッチに凸がない場合でも、使いやすい工夫をしているが、最新のタッチパネル機器にはない。
1)④視覚的表示+光や振動で知らせる機器	<ul style="list-style-type: none"> ・マレーシア製には振動や光、音声はない。 ・スマートホンは外国製なので配慮がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・タイマー、体温計などは、音・音声・振動が装備されているものを除き、視覚障害者は使いにくい。
1)⑤視覚的表示+音や音声で知らせる機器	<ul style="list-style-type: none"> ・ATMはすべてタッチパネルなので、インターネットバンキングを利用。 ・ITが苦手な人たちは、銀行の人が代筆。 	<ul style="list-style-type: none"> ・利用しやすいATMや自動販売機の提供が行われているが、まだ少ない。
2)①視覚に障害があっても操作できる家電、生活用品、設備機器	<ul style="list-style-type: none"> 代筆は、銀行のルールになっている。 ・買い物はカードやアプリ、QR決済でする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・オンラインショップで購入しない限り、地元の市場からは入手できない。
2)②聴覚に障害があっても操作できる家電、生活用品、設備機器	—	<ul style="list-style-type: none"> ・聴覚障害者は読んで操作できる。
2)③車椅子使用でも操作できる家電、生活用品、設備機器	<ul style="list-style-type: none"> ・ドラム式洗濯機がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・手の届く場所に設置されていれば、すべての機器や電気製品は使える。
2)④上肢に障害があっても操作できる家電、生活用品、設備機器	—	<ul style="list-style-type: none"> ・足や音声、顔認識で操作できる場合以外は不親切。
3)①障害者・高齢者等に便利な交通機関	<ul style="list-style-type: none"> ・電車は、駅の点字ブロックや、車内アナウンスはあるが位置を示す音はない。タッチパネルの券売機にボタンもあるが点字がない。 ・国民は、IDカードに毎月チャージすれば、電車とバスと地下鉄が乗り放題。 ・バス停は音声案内がなく停車位置も不定。 	<ul style="list-style-type: none"> ・交通手段や場所によっては、ある程度利用しやすい。 ・e-hailingとは、電子アプリを利用して公共交通機関の予約を行うサービス。マレーシア全土で行われている。
3)②障害者・高齢者等に便利なサービス等	<ul style="list-style-type: none"> ・親切な人はいるが、組織でのトレーニングはない。外国人店員も多いのでコミュニケーション自体が難しい。 	—
4)①共用品・共用サービスの普及を行っている団体	<ul style="list-style-type: none"> ・日本のような団体はない。 ・視覚障害者の場合には、視覚障害者が多いところにはUDがある。視覚障害者の団体は、政府にお願いして整備してもらう。 ・マレーシアでは政府主導なので、政府がルールをつくって命令すれば、みんなやる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・NGOや障害当事者団体が複数ある。 〈マレーシア視覚障害者財団関与例〉 ・点字ラベル付き包装が導入予定。 ・新しい建物では、点字ラベルと音声を備えたエレベータが義務。 ・多くの関連団体は、講演、メディアなどを通じて常に推進している。
4)②共用品・共用サービスの販売を行っている団体		<ul style="list-style-type: none"> ・社会福祉局のある製品では、発行するカードに切り込みが入っている。 ・最近、商業界もアクセシブルな製品やサービスを提供するようになった。 ロクシタン：シャンプー等に点字ラベルが貼られている。

「—」～ なし/不明/未確認

表 4-10 シンガポール

項目	① (調査者からの報告)
1) ①触って中身の違いが分かる包装容器	・シャンプーとコンディショナー、トイレタリー製品など、色以外、パッケージには何の違いもない。
1) ②見やすい表示の包装容器	・見かけない。デザインは美観に大きく左右されている。
1) ③凸が付いた家電、事務機械、情報機器	・プリンターの場合、ON ボタンは凸付きだが、LED タッチパネルが多く、弱視には不親切。また、パネルが腰の高さなので車椅子利用者は手が届きにくい。
1) ④視覚的表示+光や振動で知らせる機器	—
1) ⑤視覚的表示+音や音声で知らせる機器	・温度計やタイマーはピープ音が鳴る。 ・「しゃべる ATM」が全土に設置されている。利用者はイヤホンを持参する。使用中は自動的に画面が消え、他の客に画面が見えないようになっている。
2) ①視覚に障害があっても操作できる家電、生活用品、設備機器	・量販店では手に入らないので、輸入している専門店を訪ねる必要がある。
2) ②聴覚に障害があっても操作できる家電、生活用品、設備機器	—
2) ③車椅子使用でも操作できる家電、生活用品、設備機器	・WRAEK および Werables の製品の一部は、車椅子利用者も使える場合がある。
2) ④上肢に障害があっても操作できる家電、生活用品、設備機器	・WRAEK は、障害のある人が使えるキーボードの製作を検討している。 ・障害者用の服や、片手しか使えない人のための製品がある。
3) ①障害者・高齢者等に便利な交通機関	<p>鉄道：</p> <ul style="list-style-type: none"> ・一つの団体が管理しているため、アクセシビリティも統一されている。 ・点字ブロック、エレベータ、スロープ、エレベータの点字付きボタンが設置されている。音声案内や、視覚障害者にも使いやすい券売機は不十分。 ・券売機は、高齢者、車椅子使用者、子供にとって有益なものに改善された。 <p>バス：</p> <ul style="list-style-type: none"> ・大手バス会社 SMRT は、バリアフリーに関する情報を提供しているが、すべてのバスに車椅子用のスロープが設置されているわけではない。 ・バスの到着時刻を表示するアプリは、車椅子対応バスの到着時刻も表示する。 ・バスの運転手は通常、ドアを開けて自分の番号を言い、視覚障害者がバスを待っているかどうかを確認する。 <p>その他</p> <ul style="list-style-type: none"> ・高齢者・障害者は交通カード (SUICA のようなもの) で信号機をタップすると、横断時間が長くなる。
3) ②障害者・高齢者等に便利なサービス等	—
4) ①共用品・共用サービスの普及を行っている団体	<ul style="list-style-type: none"> ・障害者団体等は産業界のパートナーと協力している、参加団体は、シンガポール視覚障害者協会、シンガポールろう者協会、レインボーセンター、MINDS、SPD、HWA、脳卒中サポートステーション、筋ジストロフィー協会など。 ・公的機関としては、SG Enable と Design Singapore Council がある。他にも、サービスを障害者にやさしいものになろうと取り組み始めているところがある。 ・業界や企業としては、Werables、Rehabit など。他にもあるが、ほとんどが若い学生たちによるもので、市場投入段階ではない。
4) ②共用品・共用サービスの販売を行っている団体	<ul style="list-style-type: none"> ・社会福祉法人が施設内に商品を置き、会員に購入してもらうことはあり得る。 ・販売を主要なサービスとして行っている公的機関を知らない。販売するのは、主に生産者・設計者だが、製品を気軽に探せるようなポータルサイトはない。 ・業界や企業としては、高齢者・障害者・車椅子ユーザー ARIAN

「—」～ なし/不明/未確認

表 4-11 インドネシア

項目	①女性、30代、全盲、フローレス島在住	②（調査者からの報告）
1)①触って中身の違いが分かる包装容器	・マッサージオイルの外箱に点字で製品の名前が書かれてあるものがあった。	・インドネシアでは、障害者向けの製品に違いはない。
1)②見やすい表示の包装容器	・箱に大きく書いてあるという話はあまり聞かない。	・パッケージは万人向けが一般的。
1)③凸が付いた家電、事務機械、情報機器	・インドネシアのパソコンにはJとFに点がついている。電話やATMの「5」「8」に点がついている機械が多い。	—
1)④視覚的表示+光や振動で知らせる機器	・音声の製品は、パソコン以外にはあまりない。 ・ATMの音声はあるが、周りに聞こえるので、privacyが守れない。機械の音声は英語なので不便。	・携帯電話にバイブレーションがある。
1)⑤視覚的表示+音や音声で知らせる機器		・温度計や携帯電話などに、音が出るものがある。
2)①視覚に障害があっても操作できる家電、生活用品、設備機器		・湯沸かし器のケトルは音でわかる。 ・スマートフォンには、テキストを読み上げるアプリがある。
2)②聴覚に障害があっても操作できる家電、生活用品、設備機器	—	・スマートフォンには、音声を録音しテキスト変換できるアプリがあり、手話がなくても音声を理解できる。
2)③車椅子使用でも操作できる家電、生活用品、設備機器	・洗濯機を使う人は50ぐらいなので、ドラム式はあまり見たことがない。	・車椅子使用者が困っているのは製品自体ではなく、持ち運びのほう。
2)④上肢に障害があっても操作できる家電、生活用品、設備機器	—	・上肢障害者が困っているのは製品自体ではなく、持ち運び。
3)①障害者・高齢者等に便利な交通機関	・島に鉄道や地下鉄はない。バスは時間が読めないで、バイクタクシーが良い。スマホアプリで予約して使う。	・電車は障害者が完全に利用できるものではない。車椅子用トイレ、車椅子等の置き場、標準化されたサービス手順等がない。特別な職員もいない。 ・飛行機には障害者サービスがあるが、統一されているわけではない。 ・バスはバリアフリー化されていない停留所が多く、利用が困難な状況。
3)②障害者・高齢者等に便利なサービス等	・最近、障害者のためのサービス（店、病院、銀行等）ができた。障害者用設備もあり、人も親切になった。	・すべてのホテルや観光地にバリアフリートイレが設置されているわけではない。
4)①共用品・共用サービスの普及を行っている団体	・特別な団体はないと思う。観光産業などの会社などが視覚障害者と呼んで意見を聞くことはある。 ・選挙など政治に関係したことについても意見を聞かれることがある。	・障害者団体の運動が、障害者の権利実現の上で役割を担っている。障害者団体間のネットワークも非常に良好。実施にはまだ多くの問題がある。 ・多くの障害者団体が独自に、あるいは様々な機関と連携して、障害者の権利実現に関する研究や普及活動を行ってきた。実施にはまだ多くの問題が残されている。 ・業界団体や個々の企業でも提唱しているところはあるが、多くはない。
4)②共用品・共用サービスの販売を行っている団体		・すべての人のための製品を考えている企業はないように思う。

「—」～ なし/不明/未確認

表 4-12 インド

項目	① (調査者からの報告)
1) ①触って中身の違いが分かる包装容器	・シャワージェル。
1) ②見やすい表示の包装容器	—
1) ③凸が付いた家電、事務機械、情報機器	・コピーマシン、パソコン（ノート型、デスクトップ）で見たことがある。
1) ④視覚的表示+光や振動で知らせる機器	・タイマーもあるが、コストがかかる。
1) ⑤視覚的表示+音や音声で知らせる機器	・小さな空港や駅では利用できない。多くの駅や空港では、現在進行形である。
2) ①視覚に障害があっても操作できる家電、生活用品、設備機器	—
2) ②聴覚に障害があっても操作できる家電、生活用品、設備機器	・視覚的に見えていても、バイブレーターや、光の仕掛けがあれば、もっと便利になる。
2) ③車椅子使用でも操作できる家電、生活用品、設備機器	—
2) ④上肢に障害があっても操作できる家電、生活用品、設備機器	—
3) ①障害者・高齢者等に便利な交通機関	・重要な路線では数台のボルボバスが利用でき、Uber 等のサービスもある。 ・一部のバス車内では、バス停留所や行き先についてのアナウンスが流れる。
3) ②障害者・高齢者等に便利なサービス等	—
4) ①共用品・共用サービスの普及を行っている団体	・Mobility India (モビリティ・インドア), National Association For Blind (インド視覚障害者協会), Enable India (イネーブルインドア), Mitra Jyothi (ミトラジョーティー) ・National Institute for Empowerment of Persons with Multiple Disabilities (国立重複障害者エンパワメント研究所), All India Institute of Speech & Hearing (全インド言語聴覚研究所), Spastic Society of Karnataka (カルナタカ痙性協会), Institute of Applied Cerebral Palsy (応用脳性麻痺研究所), Muskaan, Forum for Autism, Inspiration ・Nayi Disha, Action for Autism, APD, Mitra for Life, Biswa Gouri Charitable Trust, Parivar
4) ②共用品・共用サービスの販売を行っている団体	・Atypical Advantage, Mitti Goods, Jhappi, Diya Innovation, Mobility India

「—」～ なし/不明/未確認

表 4-13 ネパール

項目	①女性、40代、脊髄損傷、日本在住	②（調査者からの報告）
1) ①触って中身の違いが分かる包装容器	・輸入品には、点字や触ってわかる印がついているものを見かけるが、ネパールの会社製のものでは見たことがない。	—
1) ②見やすい表示の包装容器	—	—
1) ③凸が付いた家電、事務機械、情報機器	・製品そのものに印がついているものは、ネパール製では見たことがない。公共機関でも使われているのを見たことがない。 ・外国製パソコンのJとFには触ってわかる印がついていた。	—
1) ④視覚的表示+光や振動で知らせる機器	—	—
1) ⑤視覚的表示+音や音声で知らせる機器	—	—
2) ①視覚に障害があっても操作できる家電、生活用品、設備機器	—	—
2) ②聴覚に障害があっても操作できる家電、生活用品、設備機器	—	—
2) ③車椅子使用でも操作できる家電、生活用品、設備機器	・ATMは画面の位置が高すぎて手が届かない。車椅子で機械に近づけない。観光地では段差がないATMがあると聞いた。 ・ドラム式洗濯機のほとんどは海外製。 ・エレベータはあるが少ない。	—
2) ④上肢に障害があっても操作できる家電、生活用品、設備機器	—	—
3) ①障害者・高齢者等に便利な交通機関	・ネパールには電車がなく、ほとんどがバスとタクシー。車椅子で乗れるタクシーは、カトマンズで1台しかない。 ・カトマンズには、障害者の自立生活センターがあり、リフト式の障害者用車両もある。ポカラでは、市役所にリフト付きタクシーの導入を働きかけている。	・一般車両はほとんどバリアフリー化されていない。
3) ②障害者・高齢者等に便利なサービス等	・スロープがある市役所が増えてきた。 ・銀行等で上に車椅子をあげてくれたり、書類を持ってきてくれたりする。 ・テレビやラジオで、共生社会にしようというお知らせなどを行っている。 ・手話通訳がいる役所もあるらしい。 ・誰かが声をかけて助けてくれる。	・ほとんどなし。
4) ①共用品・共用サービスの普及を行っている団体	・ある。最近いろいろとできてきている。NPOなどの当事者団体。みんなと一緒にやる人が少しずつ出てきたという感じ。	—
4) ②共用品・共用サービスの販売を行っている団体		—

「—」～ なし/不明/未確認

表 4-14 パキスタン

項目	① (調査者からの報告)
1) ①触って中身の違いが分かる包装容器	—
1) ②見やすい表示の包装容器	—
1) ③凸が付いた家電、事務機械、情報機器	—
1) ④視覚的表示+光や振動で知らせる機器	・光と音の両方で警告する機器はほとんどない。
1) ⑤視覚的表示+音や音声で知らせる機器	
2) ①視覚に障害があっても操作できる家電、生活用品、設備機器	—
2) ②聴覚に障害があっても操作できる家電、生活用品、設備機器	—
2) ③車椅子使用でも操作できる家電、生活用品、設備機器	—
2) ④上肢に障害があっても操作できる家電、生活用品、設備機器	—
3) ①障害者・高齢者等に便利な交通機関	<ul style="list-style-type: none"> ・障害者や高齢者のための優先・指定席がある。 ・三輪車、バス、ジブニー、電車、船などの公共交通機関は車椅子で利用できない。 ・バスは不便。タクシーなど他の交通機関は大丈夫だが、オンライン予約は聴覚障害者にとってはバリアがあり、視覚障害者にとっても同じ。
3) ②障害者・高齢者等に便利なサービス等	—
4) ①共用品・共用サービスの普及を行っている団体	—
4) ②共用品・共用サービスの販売を行っている団体	—

「—」～ なし/不明/未確認

表 4-15 キルギス

項目	①女性、30代、左全盲・右弱視、ビシュケク在住
1)①触って中身の違いが分かる包装容器	・視覚障害者のために考えられた製品はキルギスの会社にはない。以前、薬のパッケージに点字（ロシア語）がついているものが1つだけあった。
1)②見やすい表示の包装容器	・見たことも聞いたこともない。
1)③凸が付いた家電、事務機械、情報機器	・自分が使っているテレビのリモコンの「5」のところに、点がついている。パソコンのキーボードのJとFに、触ってわかる印がついている。
1)④視覚的表示+光や振動で知らせる機器	—
1)⑤視覚的表示+音や音声で知らせる機器	・音声でしゃべって教えてくれる体温計や血圧計がある。 ・ロシア語で話してくれる電子レンジがあるが、高い。
2)①視覚に障害があっても操作できる家電、生活用品、設備機器	・キルギスの銀行のATMは視覚障害者には使えないので、窓口に行くしかない。
2)②聴覚に障害があっても操作できる家電、生活用品、設備機器	—
2)③車椅子使用でも操作できる家電、生活用品、設備機器	・キルギスの洗濯機はすべてドラム式。上から入れる洗濯機は二層式しかない。
2)④上肢に障害があっても操作できる家電、生活用品、設備機器	—
3)①障害者・高齢者等に便利な交通機関	・バスとトロリーバスとミニバスを利用することが多く、直接運転手さんに払う。切符券売機はない。障害を持っている人のためのカードがあるが、タッチする場所が決まっていないので使いにくく、お金を払ったほうが早い。 ・たまに車椅子も乗れるトロリーバスがあって、そのバスは車内アナウンスでバス停を教えてくれる。 ・迷惑だからと、せつかくの車内アナウンスを消してしまうこともある。 ・鉄道は、首都以外の遠くに行くときにつかうので、直接窓口で買う。
3)②障害者・高齢者等に便利なサービス等	・キルギスでは、視覚障害者と聴覚障害者のために、国から家が支給されている。その近くのレストランやスーパーの人たちはすごくなれていて、親切。 ・これらのマンションから離れると、まったくそういうサービスはなく、周りの人も一般的に慣れていない。 ・視覚障害者が多く使っている病院や店は、慣れていたので適切にサービスをしてくれるが、それ以外では何もサービスがない。
4)①共用品・共用サービスの普及を行っている団体	・ないと思う。 ・法律はたくさんあると聞いたが、実行されていない。法律があることで、政府の人たちは「（本当はやっていないのに）やっています」ということにしている。大統領から指示があったりしたらやるかもしれない。
4)②共用品・共用サービスの販売を行っている団体	

「—」～ なし/不明/未確認

表 4-16 スウェーデン

項目	① (調査者からの報告)
1) ①触って中身の違いが分かる包装容器	<ul style="list-style-type: none"> ・キャップの大きさが異なり、牛乳とヨーグルトの区別ができる製品がある。 ・点字も表示されている薬がある。
1) ②見やすい表示の包装容器	<ul style="list-style-type: none"> ・牛乳の脂肪分の違いを色や線の本数(太さ)で区別できる。 ・大きな文字や単純化したイラスト、カラフルな色使いなど、品物や種類の違いが分かりやすいデザインのパッケージがある。(薬局の商品等)
1) ③凸が付いた家電、事務機械、情報機器	
1) ④視覚的表示+光や振動で知らせる機器	
1) ⑤視覚的表示+音や音声で知らせる機器	<ul style="list-style-type: none"> ・スクリュウキャップが付いた牛乳は、細かい作業が難しい人でも開けやすい。 ・スウェーデンではキャッシュレス化が進んでおり、支払いの多くは非接触型キャッシュカードやデビットカードで行われている。カードはタッチするだけなので、手指や視覚に障害があり現金での支払いが困難な人には便利。
2) ①視覚に障害があっても操作できる家電、生活用品、設備機器	<ul style="list-style-type: none"> ・ストックホルムには福祉用具を販売する店舗がいくつかある。福祉用具だけでなく、共用品と言えるような製品も扱っている。スウェーデン製に限らず、日常生活の不便さを解消する道具などが揃っていた。
2) ②聴覚に障害があっても操作できる家電、生活用品、設備機器	<ul style="list-style-type: none"> ・ベッドでも使えるクッション書見台、裏に滑り止めがある靴下、指に通して使う皮むき、食材を切った後に曲げてボウルなどに投入できる柔らかいまな板 など
2) ③車椅子使用でも操作できる家電、生活用品、設備機器	
2) ④上肢に障害があっても操作できる家電、生活用品、設備機器	
3) ①障害者・高齢者等に便利な交通機関	<ul style="list-style-type: none"> ・ストックホルムの公共交通は、ストックホルムス・ローカルトラフィック (SL) が管理している。運行などのサービスは複数の会社に委託されている。 ・案内表示などは統一されており分かりやすい。 ・目印となる床に白いタイルが貼られていてわかりやすい。路上の誘導ブロックはほとんどないが、駅構内には棒状突起が敷設してある。 ・バス停には歩道の段差に沿って白いタイルが貼られ、コントラストでわかりやすい。停車位置も決まっていて、視覚障害者はその位置で待つ。 ・駅や車内には案内表示があり、読み上げされる。アナウンスの前に音が鳴る。ドア閉めのときは、ブザーと同時に赤色のランプが点灯する。 ・標識のみのバス停でも、行き先や到着時間の案内表示があることが多い。ボタン(点字あり)を押すと、案内を読み上げる。 ・表示は文字が大きくシンプルで見やすい印象。
3) ②障害者・高齢者等に便利なサービス等	<ul style="list-style-type: none"> ・国内の主要鉄道路線は、SJ (Statens Järnvägar AB) により運営されている。 ・案内表示はシンプルで読みやすく、大型の触地図の設置も多い。 ・低床車両も導入されてきた。 ・乗降の際、スタッフや車掌が必要に応じて手助けをしている。車椅子使用者は、車両に据え付けられたリフトでデッキを昇降する。 ・国内の主要鉄道路線はプラットフォームまでのアクセスが保障されている。
4) ①共用品・共用サービスの普及を行っている団体	<ul style="list-style-type: none"> -MFD: Myndigheten för delaktighet (Swedish Agency for Participation) 社会参加に関する研究や支援等 -Hjälpmedelsinstitutet 福祉工学に関する情報を提供しているホームページ -Independent Living Institute 障害者の選択の自由、自己決定、尊厳のための、消費者主導型の政策開発を行う政策開発センター -Myndigheten för delaktighet 障害者の社会参加の支援、知見の発信等
4) ②共用品・共用サービスの販売を行っている団体	<ul style="list-style-type: none"> -ASSISTIVE TECHNOLOGY GROUP (Hjälpmedelsteknik Sverige) 福祉サービス企業、販売と製品開発を行う部門(会社)で構成される。 ・ストックホルムには福祉用具を販売する店舗がいくつかあり、福祉用具だけでなく、共用品と言えるような製品も扱っている。

表 4-17 ケニア

項目	①女性、50代、全盲、ナイロビ在住
1)①触って中身の違いが分かる包装容器	・海外で作られた薬に点字表示（英語）があるのを見たことがある。
1)②見やすい表示の包装容器	・ない。視覚障害者のことを会社は全然知らない。
1)③凸が付いた家電、事務機械、情報機器	・リモコンや昔の携帯電話に「5」の点がついていたのを見たことがある。たぶん、海外製品。
1)④視覚的表示+光や振動で知らせる機器	<ul style="list-style-type: none"> ・新しい高いビルのエレベータで音声案内を聞いたことがある。 ・ATMは使ったことがない。たぶんタッチスクリーンだと思う。 ・洗濯機はあまり使わない。一般のケニア人は手洗いしている。
1)⑤視覚的表示+音や音声で知らせる機器	
2)①視覚に障害があっても操作できる家電、生活用品、設備機器	
2)②聴覚に障害があっても操作できる家電、生活用品、設備機器	—
2)③車椅子使用でも操作できる家電、生活用品、設備機器	—
2)④上肢に障害があっても操作できる家電、生活用品、設備機器	—
3)①障害者・高齢者等に便利な交通機関	<ul style="list-style-type: none"> ・券売機はなく、オンラインで買うか、直接窓口で買う。 ・バスは、運転手に直接お金を払う。 ・小さいバスが使いやすい。行先や、次に止まるバス停を、車掌さんが大きな声でいうので使いやすい。車掌さんに降りるバス停を言いやすいのも良い。
3)②障害者・高齢者等に便利なサービス等	<ul style="list-style-type: none"> ・銀行、病院、スーパーなど、並ばなければいけないが、視覚障害者だと気づくと並ばなくてもいいし、すぐにサービスをしてくれる。何も言わないと何もやってくれないが、自分から言えばそういうサービスをしてくれる。障害者に対しては、そうするように憲法（法律）に書いてある。 <p><調査者補足> 国連の障害者権利条約の合理的配慮と思われる。 会社としてトレーニングをしているわけではなくて、その人の考えや、こちらから説明をしてやってもらう。</p>
4)①共用品・共用サービスの普及を行っている団体	<ul style="list-style-type: none"> ・障害者の福祉関係のグループはあるが、そこがどれぐらいUDについてやっているのか、よくわからない。 ・政府はUDを取り入れたいという考えがないので、あまりやらないと思う。お金の問題ではなくて、そういう考えがない。一つのことを変えるのに、すごく時間がかかる。 ・一般的にルールがあっても、警察に捕まるぐらいのことがないと守らない。例えば、コロナ禍でマスク着用が義務になっても、警察に捕まらないと、ほとんどの人がマスクをしなかった。
4)②共用品・共用サービスの販売を行っている団体	

「—」～ なし/不明/未確認

4.2 配慮がある製品

表示や操作に関する配慮がある製品の有無について、各国の状況を一覧にし、表 4-18 に示す。

1 国に 2 件のデータがある場合は、両者を合わせて判断した。

表 4-18 配慮がある製品の有無

項目 国名	触って中身の違いが分かる 包装容器	見やすい表示の包装容器	凸が付いた家電、事務機械、 情報機器	視覚的表示 + 光や振動で知 らせる機器	視覚的表示 + 音や音声で知 らせる機器	視覚に障害があっても操作 できる家電、生活用品、設 備機器	聴覚に障害があっても操作 できる家電、生活用品、設 備機器	車椅子使用でも操作できる 家電、生活用品、設備機器	上肢に障害があっても操作 できる家電、生活用品、設 備機器
中国	○	○	○	—	△	○	—	○	—
台湾	—	○	○	—	○	○	—	—	—
韓国	○	○	○	—	○	○	—	—	○
モンゴル	—	—	○	—	○	○	—	○	—
タイ	○	○	○	—	—	○	—	○	○
ミャンマー	—	—	△	—	—	—	—	—	—
ベトナム	—	—	○	—	○	○	○	—	—
フィリピン	—	—	—	—	○	○	—	—	—
マレーシア	△	△	○	△	△	○	△	○	△
シンガポール	—	—	○	—	○	○	—	△	○
インドネシア	△	—	○	○	○	○	○	△	△
インド	○	—	○	○	△	—	△	—	—
ネパール	△	—	△	—	—	—	—	△	—
パキスタン	—	—	—	△	△	—	—	—	—
キルギス	△	—	○	—	○	—	—	○	—
スウェーデン	○	○	△	△	△	○	○	○	○
ケニア	△	—	△	—	△	—	—	—	—

「○」～ ある

「△」～ まれにある/あるかもしれない

「—」～ なし/不明/未確認

4.3 障害者・高齢者等に便利な交通機関、サービス等

障害者や高齢者等に便利な交通機関、サービス等について、各国の状況を一覧にまとめ、表 4-19 に示す。1 国に 2 件のデータがある場合は両者を合わせた。

表 4-19 障害者・高齢者等に便利な交通機関、サービス等の状況

国名	交通機関	サービス等
中国	<ul style="list-style-type: none"> ・スマホアプリで呼べるタクシー。 ・地下鉄、鉄道、飛行機の誘導サービス。 	<ul style="list-style-type: none"> ・肢体不自由の家の改築に政府の補助金。
台湾	<ul style="list-style-type: none"> ・交通系カードは簡単で全盲でも使える。 ・交通機関は案内誘導をしてくれる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・同行援護サービスのような制度がある。
韓国	<ul style="list-style-type: none"> ・地下鉄は視覚障害者と付き添い者が無料。 ・タクシー券や車両への配慮がある。 	—
モンゴル	<ul style="list-style-type: none"> ・障害者には無料バスが配布されている。 	—
タイ	<ul style="list-style-type: none"> ・電車が便利。エレベータやアナウンス、点字ブロックがある。※視覚障害者は誰かと一緒に行くのが鉄道会社のルール。 	—
ミャンマー	<ul style="list-style-type: none"> ・駅が整っていないので、視覚障害者一人では利用が難しい。 	—
ベトナム	<ul style="list-style-type: none"> ・スマホアプリでバス情報が音声でわかる。 ・都心では触覚舗装があるところも。 	<ul style="list-style-type: none"> ・障害者のための各種制度が作られたが、車椅子利用者と全盲だけが対象のものもある。
フィリピン	—	<ul style="list-style-type: none"> ・障害者・高齢者が優良商品を購入する場合、5%の割引が適用される。
マレーシア	<ul style="list-style-type: none"> ・駅の点字ブロック、車内アナウンス。 ・ID カードチャージで電車等が乗り放題。 ・公共交通機関を予約できるアプリがある。 	—
シンガポール	<ul style="list-style-type: none"> ・鉄道はアクセシビリティが統一された。 ・アプリで車椅子対応バスの到着を表示。 ・高齢者・障害者は交通カードで信号機をタップすると、横断時間が長くなる。 	—
インドネシア	<ul style="list-style-type: none"> ・バイクタクシーをスマホアプリで予約。 ・飛行機に障害者サービスがある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・最近、障害者のためのサービス（店、病院、銀行等）ができた。
インド	<ul style="list-style-type: none"> ・重要な路線ではボルボバスが利用できる。 	—
ネパール	<ul style="list-style-type: none"> ・電車がなく、ほとんどがバスとタクシー。 ・カトマンズにリフト式障害者用車両あり。 	<ul style="list-style-type: none"> ・スロープがある役所が増え、手話通訳がいる役所もあるらしい。
パキスタン	<ul style="list-style-type: none"> ・障害者や高齢者のための優先指定席。 	—
キルギス	<ul style="list-style-type: none"> ・障害者のためのカードがある。 ・車椅子も乗れるトロリーバスがある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・視覚障害者と聴覚障害者のために、国から家が支給される。
スウェーデン	<ul style="list-style-type: none"> ・ストックホルムの公共交通は、SL が管理している。案内表示等が統一されていてわかりやすい。 ・国内の主要鉄道路線は、SJ により運営され、案内表示はシンプルで読みやすい。 ・国内の主要鉄道路線はプラットフォームまでのアクセスが保障されている。 	—
ケニア	<ul style="list-style-type: none"> ・券売機はなく、窓口かオンラインで買う。 ・バスは、運転手に直接お金を払う。小さいバスが使いやすい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・銀行、病院、スーパーなど、並ばなければいけないが、視覚障害者だと気づくとすぐにサービスしてくれる。

「—」～ なし/不明/未確認

4.4 共用品・共用サービスに関連する団体

共用品・共用サービスの普及や販売を行っている団体（障害者団体、高齢者団体、公的機関、NPO、企業等）について、各国の状況を一覧にまとめ、表 4-20 に示す。1 国に 2 件のデータがある場合は両者を合わせた。

表 4-20 共用品・共用サービスに関連する団体の状況

国名	共用品・共用サービスの普及や販売を行っている団体
中国	<ul style="list-style-type: none"> ・社会全体のバリアフリー化などへ取り組んでいる団体はある。 ・企業など、支援金・寄付金・慈善事業・障害者雇用の制度で普及させる動きはある。 ・政府で統括しているところはない。
台湾	<ul style="list-style-type: none"> ・共用品を広める団体はない。バリアフリーの法律があるが、個人で動いてもできない。 ・障害者団体と地方行政との委員会があるので、そこで要望を出す。
韓国	<ul style="list-style-type: none"> ・政府系の機関と各障害者団体が研究会をつくっていると思う。
モンゴル	—
タイ	<ul style="list-style-type: none"> ・いくつかの大学が一緒になって、UD センターをつくっている。 ・高齢者に対する伝統的な社会風習と、UD の考え方が違う。 ・タイでは、日本に行っているいろいろなことを取り入れることが多い。
ミャンマー	—
ベトナム	<ul style="list-style-type: none"> ・盲人協会は、視覚障害のことだけで、政府に UD をやってほしいという要望は出していない。
フィリピン	<ul style="list-style-type: none"> ・Resources for the Blind, Physicians for Peace, Walk and Work, ATRIEV, Davao Jubilee Foundation, Tahanan Walang Hagdanan (House with No Steps), International Deaf Education Association (IDEA), Philippines ・National Council on Disability Affairs (フィリピン障害者問題審議会) ・House with No Steps (販売) ・個人で販売している会社もある。オンラインプラットフォームで購入できる。
マレーシア	<ul style="list-style-type: none"> ・NGO や障害当事者団体が複数ある。多くの関連団体はメディアなどを通じて推進。 ・マレーシアでは政府主導。視覚障害者の団体は、政府にお願いして整備してもらう。 ・社会福祉局や、商業界でもアクセシブルな製品やサービスを提供するようになった。
シンガポール	<ul style="list-style-type: none"> ・障害者団体等は産業界と協力している。シンガポール視覚障害者協会、シンガポールろう者協会、レインボーセンター、脳卒中サポートステーション、筋ジストロフィー協会等。 ・公的機関としては、SG Enable と Design Singapore Council がある。 ・業界や企業としては、Werables、Rehabit など。 ・販売を主要なサービスとして行っている公的機関はない。 ・社会福祉法人が施設内に商品を置き、会員に購入してもらうことはあり得る。
インドネシア	<ul style="list-style-type: none"> ・障害者団体の運動が、障害者の権利実現の上で役割を担っている。研究や普及活動を行ってきたが、実施にはまだ課題。障害者団体間のネットワークは良好。 ・業界団体や個々の企業でも提唱しているところはあるが、多くはない。
インド	<ul style="list-style-type: none"> ・モビリティ・インディア、インド視覚障害者協会、イネーブルインディア、ミトラジョーティー、国立重複障害者エンパワメント研究所、全インド言語聴覚研究所、カルナタカ痙性協会、応用脳性麻痺研究所 等
ネパール	<ul style="list-style-type: none"> ・最近いろいろとできている。NPO などの当事者団体。
パキスタン	—
キルギス	<ul style="list-style-type: none"> ・法律はたくさんあると聞いたが、実行されていない。
スウェーデン	<ul style="list-style-type: none"> ・MFD: Myndigheten för delaktighet 社会参加に関する研究や支援等。 ・Hjälpmedelinstitutet 福祉工学に関する情報を提供しているホームページ。 ・Independent Living Institute 障害者の選択の自由、自己決定、尊厳のための、消費者主導型の政策開発を行う政策開発センター。 ・Myndigheten för delaktighet 障害者の社会参加の支援、知見の発信等。 ・ASSISTIVE TECHNOLOGY GROUP (Hjälpmedelsteknik Sverige) 福祉サービス企業、販売と製品開発を行う部門（会社）で構成される。 ・ストックホルムには福祉用具販売店が複数あり、共用品と言えるような製品も扱っている。
ケニア	<ul style="list-style-type: none"> ・障害者の福祉関係のグループはあるが、UD についてやっているのか、よくわからない。

「—」～ なし/不明/未確認

5. まとめ

各調査項目について、調査結果をまとめると共に、次年度に向けて課題を抽出した。

1) 表示に関する配慮がある製品の有無

① 同じ形状の中身が異なる容器で、触ってその違いが分かる包装容器（各種パッケージ）

日本では、包装容器の触覚による識別の工夫は、シャンプー・リンス、缶アルコールなどをはじめ多くに、点字及び点字以外でも行われている。普及の要因は、複数の視覚障害者からのニーズが関連企業や業界に届いたことと共に、国内規格（JIS）が作られたことも影響している。同規格は、日本から国際規格（IS）に提案し、制定されている。

今回の調査では、日本から包装容器の規格を国際提案する際に連携した中国、韓国で確認できた。スウェーデンでも独自の工夫が見られた。それ以外の国では、輸入商品で若干見かけたという程度であった。

【 確認したい工夫 】

- ・パッケージに付けるシリコンの蓋（韓国）。
- ・印をつけたシャンプー（タイ）。
- ・形が違うリンスとシャンプー（タイ）。
- ・歯磨き粉に点字表示（タイ）。
- ・マッサージオイル外箱に点字（インドネシア）。
- ・シャワージェル（インド）。
- ・ロシア語の点字表示のある薬（キリギス）。
- ・点字表示のある薬容器（スウェーデン）。
- ・キャップの大きさが異なる容器（スウェーデン）。
- ・街の業者のものは箱がない（ミャンマー）。

【 普及への課題 】

- ・不便を感じている人たちのニーズが企業・業界に届く仕組みが必要である。
- ・工夫された事例を共有する仕組みが必要である。
- ・有効な工夫の標準化（規格化）並びに、既存の国際規格の普及が必要である。

② 見やすい表示の包装容器（各種パッケージ）

スウェーデンでは、牛乳パックの脂肪分の違いなどが分かりやすく表示されているとの報告があった。その他の国でも、字が大きく表示されているところがあり、これは視覚障害者への工夫というより高齢者を意識したもののようなものである。

【 確認したい工夫 】

- ・牛乳パックの脂肪分の違いの表示（スウェーデン）。

【 普及への課題 】

- ・包装容器にはどのような表示が見やすいのかを確認し、それぞれの工夫を整理して示す必要がある。

③ 凸の付いた家電製品、事務機械（コピー機・複合機等）、情報機器（スマートホン、パソコン等）

電話、ATM、リモコンの 5 に凸点が付いている国や、パソコンの J と F に凸表示のある国が多い。操作部が液晶表示に変わり、視覚障害者には使いづらくなったというコメントも多かった。

【 確認したい工夫 】

- ・凸表示がある家電・ATM・エレベータ等（中国、台湾、韓国、タイ、ベトナム、マレーシア、シンガポール、インドネシア、キルギス、スウェーデン、ケニア）。

【 普及への課題 】

- ・凸点等を付ける製品種を整理し、その意味も含めて、関係機関に示す必要がある。
- ・どの国でどの機種に凸点が表示されているかを、別の方法で確認する必要がある。
- ・点字が付いている家電があるが、日本語の点字なので分からない（タイ）とのコメントについて、解決方法を検討する必要がある。
- ・ボタンに点字等がないが、ボタンの位置を覚えていて操作しているとのコメントがあった。操作部のボタンの位置の標準化も検討する必要がある。

④ 視覚的な表示だけでなく、光や振動で各種事項を知らせる機器（タイマー、体温計 等）

振動で知らせてくれるスマートホンや携帯電話以外では、報告がなかった。

【 普及への課題 】

- ・光や振動の表示が必要なのは、主に聴覚に障害のある人だが、ニーズが企業に届いていない状況が読み取れる。
- ・解決案の提示と共に、光・振動で知らせる重要性を伝える必要がある。
- ・振動に関する規格の作成も必要である。

⑤ 視覚的な表示だけでなく、音や音声で各種事項を知らせる機器（家電製品、ATM、自動券売機等）

音声が出ない機器でも、スマートホンとの連動で使用可能になるという報告が複数あった。

【 確認したい工夫 】

- ・開けると音が出るごみ箱（ベトナム）。
- ・操作方法の音声化（ベトナム）。
- ・音声表示のあるエレベータ（ケニア）。

【 普及への課題 】

- ・音や音声の表示が必要なのは、主に視覚に障害のある人だが、ニーズが企業に届いていない状況が読み取れる。
- ・解決案の提示と共に、音・音声で知らせる重要性を伝える必要がある。
- ・音・音声に関する共用品（アクセシブルデザイン）の規格の普及も必要である。

2) 操作に関する配慮がある製品の有無

① 視覚に障害があっても操作できる家電製品、日常生活用製品、設備機器

操作に関しても、前述した表示と同様の配慮があるとの報告が複数あった。

【 確認したい工夫 】

- ・音声の出る ATM（台湾）。
- ・音声体温計（韓国）。
- ・各国の盲人用具販売施設でのリストの入手。
- ・入手できる店等の確認（店・ネット・他）。
- ・銀行の代筆がルールになっている（マレーシア）。

【 普及への課題 】

- ・操作部、表示部の液晶化、QR コードの読み取り、カード決済の浸透を見越し、それらへの対応も検討する必要がある。
- ・IT 機器が苦手な人への対応も検討が必要である。
- ・音声の出る ATM、プライバシー保護についての確認が必要である。

② 聴覚に障害があっても操作できる家電製品、日常生活用製品、設備機器

この質問に関しては、コメントが少なかった。その理由として、今回の回答者の多くが視覚障害者だったこともあげられる。

【 確認したい工夫 】

- ・聴覚障害者へのヒヤリング。

【 普及への課題 】

- ・聴覚障害者に対する工夫の事例を可視化する必要がある。
- ・聴覚障害者のニーズが企業・業界・行政に定期的または随時届く仕組みにする必要がある。
- ・既存の規格の見直しと、新規で作るべき規格の検討が必要である。

③ 車椅子使用でも操作できる家電製品、日常生活用製品、設備機器

この質問に関しては、コメントが少なかった。その理由として、今回の回答者の多くが視覚障害者だったこともあげられる。

【 確認したい工夫 】

- ・スーパーの通路幅（中国）。
- ・ドラム式洗濯機（中国、モンゴル、タイ、マレーシア、ネパール、キリギス）。
- ・ATMの高さ（韓国）。
- ・バータイプのマンションのドア（韓国）。
- ・ユニットバスの手すり（韓国）。
- ・WRAEK および Werables の製品（シンガポール）。

【 普及への課題 】

- ・車椅子使用者に対する工夫の事例を可視化する必要がある。
- ・車椅子使用者のニーズが企業・業界・行政に定期的または随時届く仕組みにする必要がある。
- ・既存の規格の見直しと、新規で作るべき規格の検討が必要である。

④ 上肢に障害があっても操作できる家電製品、日常生活用製品、設備機器

製品の持ち運びが不便という回答が印象的だった。

【 確認したい工夫 】

- ・キャップを開けやすくする道具（タイ）。
- ・片手しか使えない人のための製品（シンガポール）。
- ・WRAEK のキーボード（シンガポール）。

【 普及への課題 】

- ・上肢障害者に対する工夫の事例を可視化する必要がある。
- ・上肢障害者のニーズが企業・業界・行政に定期的または随時届く仕組みにする必要がある。
- ・既存の規格の見直しと、新規で作るべき規格の検討が必要である。

3) 障害者・高齢者等に便利な交通機関、サービス等

① 障害者・高齢者等に便利な交通機関

多くの情報が寄せられており、関心の高さがうかがえる。障害者には危険という理由で、一人では利用できない国（タイ、ミャンマー）もあるようだ。

【 確認したい工夫 】

- ・スマートホンで呼べるタクシー（中国、ベトナム）。

- ・交通機関での誘導・支援サービス（中国、台湾、タイ、他）。
- ・社員教育（台湾、他）。
- ・飛行機のバリアフリーサービス（中国）。
- ・（バス等）音声アナウンス（モンゴル、タイ、他）。
- ・点字ブロック（各国）。
- ・鉄道カード（マレーシア、シンガポール、他）。
- ・一つの団体が管理（シンガポール、スウェーデン）。
- ・車椅子で乗れるトロリーバス（キルギス）。

【 普及への課題 】

・本調査結果を、交通エコロジー・モビリティ財団と共有して、共用品推進機構が担当できる事項があるか確認する。

② 障害者・高齢者等に便利なサービス等

頼めばやってくれるが、制度になっていない国が多い。障害者が一人で行動することに理解を示さない機関もあるようだ。

【 確認したい工夫 】

- ・同行援護サービス（台湾）。
- ・個人商店でのサービス（モンゴル）。
- ・店、病院、銀行等のサービスが始まった（インドネシア）。
- ・国が、視覚・聴覚障害者のために支給している家（キルギス）。

【 普及への課題 】

・共用サービスの実態を、視覚障害以外の当事者の意見も聞きながら整理し、普及方法を考えていく。

4) 共用品・共用サービスに関連する団体

① 共用品・共用サービスの普及を行っている団体

【 確認したい工夫 】【 普及への課題 】

- ・今回あがった機関が行っていることを再度確認し、次のステップに進む。

② 共用品・共用サービスの販売を行っている団体

【 確認したい工夫 】【 普及への課題 】

- ・今回あがった機関が行っていることを再度確認し、次のステップに進む。

6. 調査データ

調査者からの原資料を記載する。一部は表に編集した。

6.1 アジアを中心とした12か国調査

調査者

6.1.1 呂曉彤（帝京科学大学 教授）

6.1.2～6.1.13

新井愛一郎（社会福祉法人国際視覚障害者援護協会 事務局長）

芳賀優子（同協会 会員）

調査国

国名	国連の障害者権利条約批准日
中国	2008年8月
台湾	国連自体に加盟していない。
韓国	2008年12月
モンゴル	2009年5月（署名という手続きを省いているが、条約の規定を法的に順守する意思があり、批准と変わらない。）
タイ	2008年7月
ミャンマー	2011年12月（署名という手続きを省いているが、条約の規定を法的に順守する意思があり、批准と変わらない。）
ベトナム	2015年2月
マレーシア	2010年7月
インドネシア	2011年11月
ネパール	2010年5月
キルギス	2019年5月
ケニア	2008年5月

調査方法

インタビュー調査

調査期間

2022年11月～2023年1月

調査結果

原資料（調査票）を表に編集し、6.1.1～6.1.13に記載

6.1.1 中国 22年11/14 オンライン <女性、大学教授、日本在住>

項目	内容
同じ形状の中身が異なる容器で、触ってその違いが分かる包装容器	<ul style="list-style-type: none"> ・シャンプー、リンスなど特に識別はされていないようである。 ・包装(パッケージ)に関しては、日本とは逆で簡素化の動きがある。
表示されている文字が、通常より大きく書かれておりコントラストもはっきりしている包装容器	<ul style="list-style-type: none"> ・障害者への配慮というより、高齢者への配慮として、高齢者が見やすいモノ(パッケージの字の大きさ)はある。 パン、ペットボトル、缶、牛乳、調味料(瓶や缶ではなくビニール袋)等 ・見やすさといった配慮は食料品よりも日用品が遅れているように感じる。
凸のついている家電製品、事務機械(コピー機・複合機等)、情報機器(スマートホン、パソコン等)	<ul style="list-style-type: none"> ・高齢者よりも、若い人に合わせて作られている。 ・高齢者への配慮はあまり感じられない。
視覚的な表示だけでなく、光や振動で各種事項を知らせる機器	<ul style="list-style-type: none"> ・北京のPCR検査場で「もう1歩前へ」「口を開けてください」など音声案内する機械(カメラ)があった。
視覚的な表示だけでなく、音や音声で各種事項を知らせる機器	<ul style="list-style-type: none"> ・上記のような対応可能な機器の有無は、場所(都市・地方)にもよる。 ・銀行ATMの点字表記。
視覚に障害があっても、操作できる家電製品、日常生活用製品、設備機器	—
聴覚に障害があっても、操作できる家電製品、日常生活用製品、設備機器	—
車椅子使用でも、操作できる家電製品、日常生活用製品、設備機器	<ul style="list-style-type: none"> ・スーパーの通路は車椅子が通れるように、商品が見やすくできている。
上肢に障害があっても、操作できる家電製品、日常生活用製品、設備機器	—
障害者・高齢者等に便利な交通機関	—
障害者・高齢者等に便利なサービス等	—
共用品・共用サービスに関連する団体	<ul style="list-style-type: none"> ・共用品とまでは言えないが、高齢者が健康で長生きできるよう、社会全体のバリアフリー化などへ取り組んでいる団体はあるようだ。 ・企業(ファーウェイ、ユニクロ)など、支援金・寄付金・慈善事業・障害者雇用の制度で普及させる動きはあるようだ。 <p><調査者から調査方法の提案></p> <ul style="list-style-type: none"> ・国間(日本・中国)での共同作業であれば、調査対象を絞らなければならない。正式な依頼状をどの団体にお問い合わせするか要検討。 ・障害者関係の研究者、中国のバリアフリー研究者、障害者連合会所属の研究者、高齢者協会、専門委員会の方などと助成金を使っての共同研究。 ・人脈を活かして、協力者を求める。

「—」～ 回答なし

6.1.2 中華人民共和国 天津市 22年12/29 オンライン (Zoom)

<女性、50代、全盲、元日本語教師、現在～援護協会日本語サポートチーム>

項目	内容
同じ形状の中身が異なる容器で、触ってその違いが分かる包装容器	少ないが、シャンプー、リンス、ボディソープのギザギザがついているものを一度見たことがある。でも、あまり見かけない。 メーカーによって、ふたの形の違いで液体洗剤と柔軟剤が触ってわかる。(自分が使っているメーカー) 通販で購入した日本製品に点字がついていたのでびっくりした。(化粧品、サロンパスのような湿布薬)
表示されている文字が、通常より大きく書かれておりコントラストもはっきりしている包装容器	大きな文字やコントラストのはっきりした表示のパッケージがあるが、弱視のためにそうしているかどうかはわからない。弱視の友人が、これは見やすい、これは見えにくいという話しをしている。 お菓子のパッケージやポテトチップスのパッケージに見やすいものがあるという話しはよく聞く。調味料のメーカーのロゴがはっきり表示されている会社があるという話しも聞く。
凸のついている家電製品、事務機械(コピー機・複合機等)、情報機器(スマートホン、パソコン等)	オンに点、ギザギザの線がついている電気製品がある。 パソコンの電源のスイッチが、触ってこれが確実に電源だとわかる形になっている。(以前のはわかりにくかった)
視覚的な表示だけでなく、光や振動で各種事項を知らせる機器	ウィーチャット(中国のSNS)の視覚障害者向け買い物サービスの広告に、フライヤー、電子レンジなど視覚障害者が使いやすい製品を紹介しているページがあり、そこでは家電製品などについて説明がされているが、自分は利用したことがないので、体験としてはわからない。
視覚的な表示だけでなく、音や音声で各種事項を知らせる機器	どこまで自分で使えるかがわからないし、品質の保証がない。せっかく買うなら、長持ちする、自分で使える、よい品質のものを買いたい。このSNSの視覚障害者用買い物サイトは、ユニバーサルデザインというよりも、視覚障害者向けの商品のような気がする。
視覚に障害があっても、操作できる家電製品、日常生活用製品、設備機器	エアコンのリモコンに、凸点がついているものがある。自分が使っているエアコンのリモコンは、電源のオンオフや温度調整など、大事なボタンに点がついている。しかし、冷房を暖房に切り替えるボタンには何もついていない。なので、完全ではない。 ATMに、音声電話がついているところがあるが、ATMはすべてタッチパネルで、視覚障害者には使えないので、何のための電話かはわからない。たぶん問い合わせのためではないか?
聴覚に障害があっても、操作できる家電製品、日常生活用製品、設備機器	—
車椅子使用でも、操作できる家電製品、日常生活用製品、設備機器	数年前から、肢体不自由の方の家の改築に政府の補助金が出るようになった。 ドラム式の洗濯機が普及してきている。20万円ぐらい。障害のあるなしではなくて、一般的にかなり普及している。 ドラム式で、捜査ボタンも横についている機種もある。しかし、タッチパネル。最近の中国の洗濯機の操作ボタンはタッチパネルが主流になってしまって困っている。旧式には触ってわかるボタンもある。しかし、旧式を見つけるのが大変。
上肢に障害があっても、操作できる家電製品、日常生活用製品、設備機器	—
障害者・高齢者等に便利な交通機関	タクシー： タクシーが一番視覚障害者には便利、スマホアプリでタクシーを呼べるし、呼んだタクシーの運転手から電話がかかってきて、どこで待つかなどの相談ができ

	<p>る。これは、視覚障害者のためではなく、一般的なサービス。道でひろうのは、視覚障害者にはほぼ不可能。でもタクシーは高い。</p> <p>地下鉄： 地下鉄は、障害者手帳を提示することで、窓口で特別切符（無料）を発行してもらおう。乗り場への誘導（電車に乗るまで）してくれるサービスがある。 駅社員のトレーニングができていない場合もあって、車いすをうまく誘導できなかったり、地下鉄のエレベーターがあっても、故障が多くて使えないことが多い。</p> <p>鉄道： 鉄道はネットでも窓口でも自分で切符を買う。手伝いはネットではだめだが、窓口で頼める。 飛行機：飛行機は、チケット予約時に視覚障害者である旨を告げて、バリアフリーのサービスを受けることができる。ネットでの予約ではダメで、直接航空会社に行き購入しないとサービスが受けられない。</p> <p>バス： バスが一番使いにくい。ひとつのバス停に複数の路線が入っていて、止まる場所もその時々でまちまちなので、乗りにくい。</p>
<p>障害者・高齢者等に便利なサービス等</p>	<p>ない。職員に障害のある人や高齢者の対応を訓練していない。 銀行を例にとると、視覚障害者が一人で行っても、付き添いがいないとお金の出し入れができない。銀行の人は肝心の暗証番号の入力を手伝ってくれない。（銀行の規則が関係している可能性あり）窓口も機械化されているので、ATMとあまり変わらない、プラス、サインする分使いにくい。 郵便局、病院も付き添いがいないと、視覚障害者は用事が足せない。病院の職員も、郵便局の職員も手伝ってくれない。お店も、中国では小さくて人が少ないスーパーやコンビニでは、お客さんが多くないので手伝ってもらえることがある。近所で顔見知りの場合なら、手伝ってもらえる。それは個人的な関係。大型店では無理。日本でいうインフォメーションがない。</p>
<p>共用品・共用サービスに関連する団体</p>	<p>たぶんないと思う。UDやバリアフリーというよりは、各障害別の対応を考えるようなイメージ。 政府で統括しているところはない。政府の誰かか会社の偉い人の一時的な気持ちで、やっている感じ。だから、その人が移動すると、すべてが終わってしまう。 →共用品が普及することを望む。中国では、「専門家が研究して言っていることは正しい」という考えで、いろいろなことが行われている。障害者の意見や実態調査はされていないので、本当に使えるかどうかはわからない。専門家が、これは障害者にいいと言え、みんなそれをやって、出来上がった製品が本当に使いやすいかどうかは全く関心が払われない。 専門家が『中国には点字ブロックがあるべき』と提言したら、一斉に点字ブロックが敷設されて、実際にその上を歩くと危なくて歩けない。 中国の障害のある人たちの中には、一緒にいいものを作るために協力したいというマインドがある人は意外に多いと思う。自分も、ただ「お願いします」ではなく、一緒にいいモノをつくりたい。</p>

「ー」～ 回答なし

6.1.3 中華民国 台北市 22年12/30 オンライン (Zoom)

<男性、50代、全盲、台北啓明学校（視覚特別支援学校）教員>

項目	内容
同じ形状の中身が異なる容器で、触ってその違いが分かる包装容器	ない 視覚障害者の団体から声が上がらないと、会社がやってくれない。
表示されている文字が、通常より大きく書かれておりコントラストもはっきりしている包装容器	会社によって違う。法律では特に規定はない。弱視のために大きく書いてくれるところは会社によるが、弱視にとって見やすいという配慮ではない。
凸のついている家電製品、事務機械（コピー機・複合機等）、情報機器（スマートホン、パソコン等）	オンのスイッチに点があるが、自分は日本製品を多く使っているから、そのためかもしれない。洗濯機は日立なので、点字表記がボタンについている。台湾の会社ではないと思う。台湾の会社でも例えばリモコンのオンオフの凸表示がある。今台湾では、タッチパネルの製品が主流。お店で触ってわかるボタンがついている製品を願いますと言って、見つけてもらう。
視覚的な表示だけでなく、光や振動で各種事項を知らせる機器	体温計などは日本製や中国製は音声になっているから、そちらを買う。台湾製もあるかもしれない。自分は確実な日本製を使ってしまう。
視覚的な表示だけでなく、音や音声で各種事項を知らせる機器	ATMは音声のものはあることはあるが、3万あるうち、800か900ぐらい。バリアフリーの法律はあるが、ハードの整備が主になっていて、情報機器にはあまりない。障害者団体からの声がないとやってくれない。
視覚に障害があっても、操作できる家電製品、日常生活用製品、設備機器	—
聴覚に障害があっても、操作できる家電製品、日常生活用製品、設備機器	—
車椅子使用でも、操作できる家電製品、日常生活用製品、設備機器	—
上肢に障害があっても、操作できる家電製品、日常生活用製品、設備機器	—
障害者・高齢者等に便利な交通機関	地下鉄、鉄道、新幹線は、窓口で申し出れば、案内誘導してくれる。 特に法律はない。会社の考えでやっている。地下鉄は前から障害者への対応をやっていた。地下鉄を使う視覚障害者が多かった。 7人から9人乗りの小さなバス（障害者用のバス）があって、予約を入れて乗る。料金は普通の3分の1、これをよく使う。予約時に、「ここまで来てください」と言えば、そこまで来てのせてくれる。これを使って、通勤する障害者が多い。年間計画を立てて会社が国から補助金をもらう仕組み。台北だから出来ることで、地方では難しいと思う。 交通系カードは、自分は窓口でチャージをするが、操作が割合に簡単なので、機会でも全盲の人一人で、一回教えてもらえばできると思う。
障害者・高齢者等に便利なサービス等	交通機関は、社員教育をしている。 お見せは会社による。それは社員教育というよりも経営者の考えや、個人の考えによる。

	<p>家族がついて一緒に行ってくれる、お店に行けば店員さんがやってくれる、また日本の同行援護サービスのような制度がある。自己負担は三分の一、病院に行くときなどはそのサービスを利用する。</p> <p>例えば病院では、バスで行って運転手さんに受付まで案内してもらい、受付で誘導を希望すれば、病院の中を案内するボランティアがいて、案内してくれる。法律で決まっているのではなく、病院が社会的なサービスとしてやってくれる。</p> <p>お店のサービスは、お店によって違う。事前に予約して、店員さんのアテンドを受ける、または福祉サービスの同行援護を利用する。お店による。</p>
<p>共用品・共用サービスに関連する団体</p>	<p>団体はたくさんあるが、共用品を広める団体はない。</p> <p>→共用品が普及することを望む。台湾にもバリアフリーの法律があるが、個人で動いてもできないので、議員を通すなどのことが必要。</p> <p>障害者団体と地方行政との委員会はあるので、そこで要望を出す。</p> <p>台湾のオンライン会議は、グーグルミートが多い。ネットに挙げられた資料や試験などが、全盲一人ではアクセスが難しい。検索したり、資料を読んだり、ちゃんと出席しているかどうかを確認するために時間ごとに区切って配布資料を確認する必要があるが、それが難しい。</p> <p><補足></p> <p>国連に参加できない台湾では、世界の国々と連帯して、障害者権利条約を実施したいと、特別な仕組みをつくっている。5人の委員からなる国際審査委員会を設け、国や市民社会からの文書報告と対面審査を経て、総括所見をえている。</p>

「ー」～ 回答なし

6.1.4 大韓民国 ソウル特別市 23年 1/21 オンライン (Zoom)

<男性、50代、全盲、国立ソウル盲学校盲学校教員>

項目	内容
同じ形状の中身が異なる容器で、触ってその違いが分かる包装容器	缶にビールと書いてあったり、飲料水に韓国語で「飲料水」と点字で書いてあるものを、いくつか見たことがある。全部のメーカーではないけれど。シャンプーとリンス、調味料など容器が似ていて中身が違うパッケージについては、2, 3年前から、シリコンのフタで何度も使えるもので、ゴムでパッケージに掛けられるものを、国と障害者団体で、障害者団体や盲学校などに配って、使ってもらっている。その札を使いたい人は、盲人連合団体に言えば、無料でもらえるという仕組み。大手企業では、(自社で) 区別する印をつけていることもある。ただ、(無料でもらえるフタ) 調味料の場合には、フタは使いにくい面があることが課題。
表示されている文字が、通常より大きく書かれておりコントラストもはっきりしている包装容器	韓国でもユニバーサルデザインが広まり始めているので、そういう工夫はあると思う。 自分はあまり知らないが、障害者よりも老人の課題のほうが先だと思う。
凸のついている家電製品、事務機械(コピー機・複合機等)、情報機器(スマートホン、パソコン等)	電気をつけるときに、オンのところには触ってわかる表示が昔から、1990年代にはあった気がする。電話機の「5」にも点があった。アメリカからの輸入のためかもしれない。マンションの部屋のドアは、2005年以降にはハンドルタイプからバータイプになって、取っ手をつかむのが難しい肢体不自由や老人が、腕にかけて開けられるような工夫がされるようになった。今はこれがスタンダードになっている。部屋と部屋との間の段差をできるだけ減らす仕様になってきている。ユニットバスにも手すりがつけられるようになってきている。建築の法律が関係しているように思われる。
視覚的な表示だけでなく、光や振動で各種事項を知らせる機器	・障害者用の音声体温計はある。コロナ禍では、盲学校であっても一般の音声が出ない体温計が配布された。スマホで体温計が音声で使えるようになっている。スマホのいいモノを買えば、パソコンや家電などは要らないこともある。盲学校
視覚的な表示だけでなく、音や音声で各種事項を知らせる機器	では、スマホと赤外線体温などを図れる機会を導入しているの、音声体温計を使う必要はない。(家では、また事情が別) ・ATMは、指紋認証のタッチ式で、日本の郵便局のようなボタンがついているのでつかえる。10年前は、電話の子機タイプの音声ガイダンスがついている機械が多かったが、コロナ少し前には受話器がなくなって、イヤホンを自分で持って
視覚に障害があっても、操作できる家電製品、日常生活用製品、設備機器	いって機械に差し込むと、音声ガイダンスモードになる。韓国はすでにカード決済が90パーセント。現金を下ろすことがあまりないし、相手にお金を送る場合には、テレフォンバンキングやネットバンキング。そのほうが手数料が安い。 ・1994年代のキム・ヨンサム大統領の時代に、カード化が進んだ。キム・デジュン大統領のときに、カードでの送金の通知の仕組みが簡単になって劇的に現金送金が減った。その時の人たちは70代になっているが、そういうやり方に慣れている。 ・券売機も10年前からカード決済。バスと地下鉄を乗り継ぐ場合に、割引ができるようになり、それもすべてカード決済でできるようになったので、現金を使うことはない。切符を買ったら、それぞれ支払うのでかえって高くつく。 ・カードには、ID機能、交通系、などいくつかの機能がまとめて入っている。カードが使えない飲食店で現金を使うぐらい。税金の還付もカードに振り込まれるので、みんなカードを持つようになる。 ・マンションの入り口のドアのタッチパネル化や、飲食店のタッチパネル化が進んでしまい、最近法律で視覚障害者のために音声をつけて利用できるようにしようという動きも出てきている。肢体不自由者にとってはATMの高さが高すぎるのが問題になっている。高さの調節などが検討されている。
聴覚に障害があっても、操作できる家電製品、日常生活用製品、設備機器	—

車椅子使用でも、操作できる家電製品、日常生活用品、設備機器	—
上肢に障害があっても、操作できる家電製品、日常生活用品、設備機器	—
障害者・高齢者等に便利な交通機関	<p>ノンステップバスの導入も10パーセント以上になってきている。</p> <p>地下鉄はソウル市内だったら、どこでも行けるので便利。自治体によって、タクシー券や車両への配慮がある。ソウル市内なら、1日4回、障害者のためのタクシーを利用することができ、全額の25パーセントだけ支払えばいい。地下鉄で行けないところは、それを使っていく。</p> <p>バスは、バス停にずれて止まったりして使いにくい。東京の様に、安全を確認してから走るということは少ないものもある。韓国の場合地下鉄は視覚障害者と付き添い者が無料。そのため、地下鉄を利用する人が多い。</p>
障害者・高齢者等に便利なサービス等	<p>役所は昔よりも良くなった気がする。自分は、妻が見える人なので、一人で行ったことがないのでわからない。案内の人がいるので、一人で行ったら係まで案内してくれると思う。国がやっているところは、教育もしていると思う。ただ、日本で一人でやっていたことを思うと、韓国はそこまで行っているかどうかわからない。学校に近い住民センターは、学校が近いからちゃんとできているが、ほかのところは案内人の配置はされているが、日本と比べてどうかわからない。案内の人には、教育はすることが義務付けられている。</p> <p>民間施設についても、日本のようにやってくれるかどうかわからない。</p>
共用品・共用サービスに関連する団体	<p>多分ある。政府系の機関と各障害者団体が研究会をつくっているかと思う。</p> <p>→共用品が普及することを望む。不便から考えていきたい。洗濯機（点字表示はない）、テレビ、冷蔵庫が使いにくい。困っていることを伝えていきたい。スマホでのIoT、AIを使って操作できる時代なので、それに音声がつけばよいと思う。韓国の大手電機メーカー等は、米国に輸出する製品には、米国の法律で求められている障害者への配慮をして売っている。でも、韓国ではそういう配慮をしないで売っている。国にルールがないため。</p> <p>※補足：米国リハビリテーション法508条のことだと思われる。</p> <p>国が会社と障害者団体の間に入り、障害者のためのことをしたら、税金の減免などの優遇があるという制度がある。この制度をもっと活用するとよい。</p>

「—」～ 回答なし

6.1.5 モンゴル国 ウランバートル 23年1/12 オンライン (Zoom)

<女性、30代、片眼光覚（光だけ）、マッサージ専門学校の教師>

項目	内容
同じ形状の中身が異なる容器で、触ってその違いが分かる包装容器	モンゴルではない。商品や食品に点字のしるしもついていない。
表示されている文字が、通常より大きく書かれておりコントラストもはっきりしている包装容器	そういうのは、きいたことがない。日本のような合理的配慮は、モンゴルではみんなわかっていない。
凸のついている家電製品、事務機械（コピー機・複合機等）、情報機器（スマートホン、パソコン等）	モンゴルの家電はだいたい輸入品。「5」の点など、輸入品にしてある配慮はある。それはたぶん国際的な約束だと思う。モンゴルの会社のもの、そのような配慮がされているものは見たことがない。私のパソコンは日本製なので、JとFに印がある。
視覚的な表示だけでなく、光や振動で各種事項を知らせる機器	モンゴルにも日本のような日常生活用具の支給制度（福祉制度）がある。それは、視覚障害者のためのものだから、触ってわかる印があったり、音声案内がついていたりする。体温計、血圧計、腕時計など。
視覚的な表示だけでなく、音や音声で各種事項を知らせる機器	洗濯機には、日本のように点字がついていない。ATMは、日本ではゆうちょ銀行などで、一人でお金をおろせたが、モンゴルでは、全部タッチパネルなのでおろせない。
視覚に障害があっても、操作できる家電製品、日常生活用製品、設備機器	機械横に電話がついているが、オペレーターにつながって、タッチパネル操作を教えてくれるだけなので、画面が見える人のためであって、視覚障害者には使えない。銀行の人にやってもらうか、家族などにやってもらうしかないので、privacyが守れない。券売機は、障害者には無料パスが配布されているので、切符を買うことはない。遠くに電車で行くときには、窓口で買う。
聴覚に障害があっても、操作できる家電製品、日常生活用製品、設備機器	—
車椅子使用でも、操作できる家電製品、日常生活用製品、設備機器	横から入れる洗濯機はあったような気がする。
上肢に障害があっても、操作できる家電製品、日常生活用製品、設備機器	—
障害者・高齢者等に便利な交通機関	日本に行く前に、バスには車内アナウンスがなかったが、今は車内アナウンスが流れるようになった。それはとても良い。でも、バスの外に流れる行先アナウンスはないのが不便。
障害者・高齢者等に便利なサービス等	人的なサービスはない。周りにいる知らない人に行先を聞いて、乗るしかない。今、モンゴルはところどころに係員を配置し始めた。（銀行）盲人協会の隣など、視覚障害者が多くいくお店は、お店の人（個人のお店）が私たちをわかってくれていて、適切にサービスしてくれる。でも、大きなスーパーなどはやっていない。

<p>共用品・共用サービス に関連する団体</p>	<p>共用品をひろめたり、研究したりしている団体や人はいない。 →共用品が普及することを望む。とてもそう思う。モンゴルに帰国したばかりだが、何から始めたらいいいのか考えている。盲人協会が、どうしてこういうことを行動しないのか、活動しないのかわからない。 多分モンゴルは、国連の障害者権利条約に入っていると思う。 政府と盲人協会の幹部とがつながって、話し合うことから始める必要がある。 お金をかけなくてもできる共用品はたくさんある。 政府は、視覚障害者には何が必要なのかわからないので、私たちから発信していくほうが良いと思う。</p>
-------------------------------	--

「ー」～ 回答なし

6.1.6 タイ王国 バンコク 23年1/26 オンライン (Zoom)

<男性、40代、日本の手帳で2級、点字とパソコン使用、大学教員、特殊教育センターで特殊教育の研究や授業>

項目	内容
同じ形状の中身が異なる容器で、触ってその違いが分かる包装容器	やっているメーカーは少ないが、シャンプーに印をつけているところがある。昔は、リンスとシャンプーのボトルの形を変えているところもあった。歯磨き粉に点字表示があるメーカーもある (SALZ というメーカー)。日本のメーカーで「植物物語」とシャンプーボトルに英語で表示しているのがある
表示されている文字が、通常より大きく書かれておりコントラストもはっきりしている包装容器	ある。でも、UDの観点で大きくははっきり書いてあるのかどうかはわからない。ボディーソープ (DOVE) は、表示がはっきり書かれている。ポテトチップ (米国のLEY など。タイの工場で作られている) なども、文字が大きいものもある。タイの硬貨、10パーツに点字がついている (30年前ぐらいから) が、小さすぎてわからない。
凸のついている家電製品、事務機械 (コピー機・複合機等)、情報機器 (スマートホン、パソコン等)	洗濯機のオンのボタンが他のボタンよりも大きくて、真ん中に点がついていて区別しやすい。日本のメーカーの家電製品には、日本語の点字がついているが、タイ語ではないので、タイ人には読めないと思う。
視覚的な表示だけでなく、光や振動で各種事項を知らせる機器	探せば見つかると思うが、一般のデパートなどでは見つけるのが難しいので、視覚障害者の機関で聞いて見つける。種類も少ないし、値段も高い。タイでは、ボタンとタッチパネル両方がついた機種。ATMの90パーセント以上
視覚的な表示だけでなく、音や音声で各種事項を知らせる機器	が、点字や音声が無い。ある銀行では、たとえばバンコク市内で10台ぐらい、障害者が使える機械がある。でも、みんな使っていないようだ。みんな、ボタンの位置や順番を覚えて使っている。ATMが使えない時には、スマホで友人に送金して、友人にATMを操作しておろしてもらって、現金を受け取る。オンラインバンキングは、視覚障害者一人でする。Iphoneの音声アプリに対応しているの
視覚に障害があっても、操作できる家電製品、日常生活用製品、設備機器	つかえる。コロナ禍でものを触ることが制限されてきたので、現金よりもオンラインでの決済 (カード、QRコードなど) が、小さなお店も含めて多くなった。政府がそういう方向に持っていきたいので、いろいろな支援や補助をしているのだと思う。
聴覚に障害があっても、操作できる家電製品、日常生活用製品、設備機器	—
車椅子使用でも、操作できる家電製品、日常生活用製品、設備機器	ドラム式はあるが、上から入れる機種よりも高い。
上肢に障害があっても、操作できる家電製品、日常生活用製品、設備機器	オンラインの通信販売で見つけて、高齢になって手の不自由な母のために、キャップを開けやすくする道具を買った。
障害者・高齢者等に便利な交通機関	電車が一番使いやすい。エレベーターやアナウンス、点字ブロックもあるので、使いやすい。一人で使うことができなくて、切符を買うときに駅員さんなどにアテンドをもらう必要がある。一人で行くのはだめで、誰かと一緒に行くのが、鉄道会社のルールになっている。昔、視覚障害の人がホームから転落した事故があったので、accessibilityを整備しても、一人では行かせないルールが存続している。一人で十分に行ける整備状況だが、ルールを変えてもらえない。バスはアナウンスがないので使いにくい。
障害者・高齢者等に便利なサービス等	頼めばやってくれる。トレーニングはやっていない感じ。その担当者の善意でやっている。視覚障害者から、このようにサポートしてほしいと言わない限り、うしろから押して連れて行ったりされることもある。

<p>共用品・共用サービス に関連する団体</p>	<p>いくつかの大学が一緒になって、UDセンターをつくっている。（15年前から）国連の障害者条約に加盟したので、その年である2008年からUDが意識されるようになった。</p> <p>特に新しく建てられる建物にアクセシビリティの基準がつけられるようになった。音声信号機が増えてきたり、歩道と車道の段差がスロープになったりしている。現在タイの人口の20パーセントが高齢者。ただ課題となっているのは、タイの伝統的な社会風習と、UDの考え方が違うことによるギャップ。（尊敬する目上の方は上の階、でもUD的には下の階がアクセシブル。年上の人たちの部屋のドアや窓が直線状に配置されるのは、冷たい風や熱風が吹き抜けになり直接当たってしまうので、社会通念上は良くないが、UD的には円滑に移動できるので良いなど。）</p> <p>→共用品が普及することを望む。自分の仕事でも、教えたり運動したりしている。社会にUDの考え方を広めていく。法律でUDをサポートするような仕組み（税金優遇があるとか）があるとよい。政府系のサイトよりも、民間会社のサイトのほうが、アクセシブルだ。タイでは、日本に行っているいろいろなことを取り入れることが多い。予算がかかることも、UDを広めるうえで課題ではあるが、15年前とは全然違ってよくなっている。</p>
-------------------------------	--

「ー」～ 回答なし

6.1.7 ミャンマー連邦共和国 23年1/17 オンライン (Zoom) & メッセンジャー

<女性、50代、全盲、主婦、日本在住>

項目	内容
同じ形状の中身が異なる容器で、触ってその違いが分かる包装容器	ミャンマーでは盲学校の寮に入っていたので、買い物自体をした経験があまりない。周りの人たちの環境も含めて話すが、市場に売っているような感じで、日本のように袋や箱に入っているという感じではない。だから、触って何かを確かめる。町に行けばスーパーがあるが、パッケージは見える人のためのものだから、特に印はない、昔の日本のように、行商の人が売りに来てくれる。(ヤンゴンの話です。) 地方だと、家から売りたいものを持ち寄って、フリーマーケットのような感じで売っている。日本のような許可制ではなくて、どこでも売りたいものを持って行って売れる。なので、売っている人に「これ何ですか?」と聞いて買う。おかしなやつを売っている人もいるので、今日はあそこの〇〇を食べようという感じで買っている。外食のときも、売っている人に聞いてメニューを知る。書いてあっても、あったり、なかつたりするし、書いていないメニューもたくさんあるので、お店の人に聞くのが一番確実。コンビニもないし、冷蔵庫もない。
表示されている文字が、通常より大きく書かれておりコントラストもはっきりしている包装容器	—
凸のついている家電製品、事務機械(コピー機・複合機等)、情報機器(スマートホン、パソコン等)	パソコンは日本と一緒に、印は自分でつけている。パソコンのキーボードは、私は日本製を使っているのですが、ミャンマー製のは使ったことがない。たぶん、Jとfには点がついているのではないかと思います。 学校の寮の電気製品も、特にオンとオフのスイッチを区別する印はない。シーソースイッチだったり、引っ張れば点灯し、もう一度引っ張れば消えるというタイプ。ポットは一度沸かしたらスイッチが切れてそのまま保温になる。特に視覚障害者のための識別のための印や点字はついていない
視覚的な表示だけでなく、光や振動で各種事項を知らせる機器	私は、日本に来て初めて銀行に口座をついたので、ミャンマーの状況がよくわからない。今の状況を聞くと、銀行の通帳ができて、みんな通帳とATMを使い始めている。でも、視覚障害者だけで利用するのは難しいようで、振り込みも銀行の人にお金を直接渡して送金してもらう。
視覚的な表示だけでなく、音や音声で各種事項を知らせる機器	
視覚に障害があっても、操作できる家電製品、日常生活用製品、設備機器	
聴覚に障害があっても、操作できる家電製品、日常生活用製品、設備機器	—
車椅子使用でも、操作できる家電製品、日常生活用製品、設備機器	—
上肢に障害があっても、操作できる家電製品、日常生活用製品、設備機器	—
障害者・高齢者等に便利な交通機関	切符は、電車の駅で駅員さんから買う。駅がちゃんとしていないので、視覚障害者一人では利用が難しいと思う。ホームから電車は3段ぐらい高い。ホームの安全を確認しないでさっさと走ってしまうので、早く乗らなければならず、みえる人とでないと乗れない。

	<p>ほとんど見える人にやってもらっていたので、駅員さんの接客がわからない。日本の駅のようなちゃんとしたビルではなくて、少し屋根がついた程度の場所。ヤンゴンに山手線のような電車があって、それに乗ったことがあるが、友人のパートナーが見える人なので、その人をお願いしてしまっていた。</p>
<p>障害者・高齢者等に便利なサービス等</p>	<p>会社など仕事をしている人が、障害のある人にサービスをしてくれることはない。お願いすると「なんで一人で来るのか？」と言われることもある。家族や近所の人や知り合いと一緒にないと、利用が難しい。日本のようなガイドヘルパー制度もない。</p> <p>ときどきは、やさしく声をかけてくれる人がいる。（個人的に親切だから声をかける）</p> <p>一人で大学行きのバスに乗ったことがあるが、「乗ります！」と叫んで、バスのステップによじ登ろうとしたら、引っ張り上げてくれた人がいた。一人で行動すれば、助けてくれる人もいるかもしれない。</p>
<p>共用品・共用サービスに関連する団体</p>	<p>わからない</p> <p>→共用品が普及することを望む。共用品の前に、まずは平和になってほしい。平和になってから、共用品が欲しい。平和になったら、日本からも色々助けてほしい。</p> <p>障害のない人たちに、障害者のことをもっともっと知らせないといけない。プランを立てるような上の人たちにも、障害者のことをちゃんと理解してもらう必要がある。</p>

「ー」～ 回答なし

6.1.8 ベトナム社会主義共和国 ホーチミン 23年1/31 オンライン (Line 音声通話)

<男性、40代、視力0.01、コロナ前はマッサージ店経営、コロナ後は盲学校マッサージ教員>

項目	内容
同じ形状の中身が異なる容器で、触ってその違いが分かる包装容器	ベトナムの製品で、そういうものは見たことはない。つくっていないと思う。買い物するときには見える人と一緒に行ってみてもらわないとわからない。点字がついているものはない。 おとし、盲学校の建物が新しくできたが、廊下に点字ブロックが敷設された。また、ペダルを踏んでふたを開けると、音が出るごみ箱も設置された。このタイプのごみ箱は値段が高い。最近、家電量販店でペダル式ごみ箱、踏んで開けると音が出るのを見たことがある。値段は高い。
表示されている文字が、通常より大きく書かれておりコントラストもはっきりしている包装容器	ない。ベトナムでは最近ほとんどの人が、音声アプリ付きのスマホを持っている。ベトナム語アプリもあるので、その中に文字を読むアプリがあって、それを使っている。文字を音声で読んでくれたり、文字を大きく見ることもできる。
凸のついている家電製品、事務機械（コピー機・複合機等）、情報機器（スマートホン、パソコン等）	ベトナム製の電気製品には、点字付きのものはない。日本のメーカーのであれば、日本語の点字がついている洗濯機や炊飯器がある。私は読めるけれども、ほかのベトナム人の視覚障害者には読めない。スイッチに印がついているものもあるし、ピーっというような音が鳴るものもある。一番使いやすいのはテレビ。IOT、テレビの機械とスマホをつないで使っている。そうすると、操作など全部音声で読んでくれるので便利。
視覚的な表示だけでなく、光や振動で各種事項を知らせる機器	ベトナムのATMは視覚障害者は使えない。でも、銀行のアプリを携帯に入れて使えるので、振る込みなどはできる。銀行に行くこと自体が減った。店では、小さいところも含めて現金でも払えるし、スマホアプリやQRコードでも払える。だから、視覚障害者スマホアプリで払っている。
視覚的な表示だけでなく、音や音声で各種事項を知らせる機器	
視覚に障害があっても、操作できる家電製品、日常生活用製品、設備機器	
聴覚に障害があっても、操作できる家電製品、日常生活用製品、設備機器	—
車椅子使用でも、操作できる家電製品、日常生活用製品、設備機器	—
上肢に障害があっても、操作できる家電製品、日常生活用製品、設備機器	—
障害者・高齢者等に便利な交通機関	バスの数が昔よりも格段に増えて、とても便利。障害者割引もあるし、定期を買うとさらに安くなるので便利。スマホにバスのアプリが入っていて、バスの情報を音声で知ることができるのもとても便利。 アプリは4つある。バイクタクシー、車のタクシーのアプリ（予約から、料金、後何分で来るのか、距離も教えてくれる）、食事のデリバリーアプリ、スーパーなどにつながって買いたいものが買えるお買い物アプリ、バスのアプリ。決済も全部アプリ上でできる。 2004年ぐらいからこのような電子化が進んできたので、視覚障害者には格段に便利になった。 新聞もスマホで読めるようになった。 スマホを使えば、見える人に頼まなくても、ほとんど一人でできる。

<p>障害者・高齢者等に便利なサービス等</p>	<p>よくなっていない。こちらから声をかければ教えてくれるが、日本のような研修はしていない。最近、市役所での手続きでサポートが受けられるようになった。昔は、とても難しかったけれども、最近仕事をする視覚障害者が多くなってきたので、マッサージの経営許可書など、スムーズに出してくれるようになった。</p> <p>政府が最近法律で、障害者のための福祉年金制度、保険制度がつけられた。健康診断を優先的に受けられるような制度もできてきた。しかし、優先されるのは、車いす利用者と全盲だけが対象。自分のように少し見えると、優先にはしてくれない。</p>
<p>共用品・共用サービスに関連する団体</p>	<p>ないと思う。盲人協会は、視覚障害者のためのことだけをやっていて、政府にUDをやってほしいというようなことはしていない。遠慮していると思う。</p> <p>→共用品が普及することを望む。自分は、視覚障害者のマッサージ店経営者を増やして、よいマッサージを提供する視覚障害者を増やしたいと思って頑張っている。そうすることで（視覚障害者が働くことで）、障害のない人たちと同じ製品やサービスを使う視覚障害者が増えていって、もっと便利になると思うから。そういうことをやりたかったが、あまり視覚障害者から協力が得られなかった。障害のない人たちに協力を求めれば、理解を示す人が少しは出てくるかもしれない。でも多くはない気がする。</p>

「一」～ 回答なし

6.1.9 マレーシア クアラルンプール 23年1/5 オンライン (Zoom)

<男性、40代、ロービジョン (WHO 視覚指標で5パーセント)、マレーシア盲人協会会長 (4つある会の一つ) >

項目	内容
同じ形状の中身が異なる容器で、触ってその違いが分かる包装容器	マレーシアの会社ではない。日本の会社から輸入したものなら少しだけある。シャンプーとリンス (ライオン)、点字表記もマレーシアにはない。(千波未、ビールなどの感についている「お酒」という点字についてだが、イスラム教なので、アルコールは飲まない。)
表示されている文字が、通常より大きく書かれておりコントラストもはっきりしている包装容器	コントラストの配慮はないが、大きな文字ならある。飲み物、パンなどの食べ物で大きなパックでは大きな文字がある。小さいパックではパックが小さいので、文字も小さい。 ただ、コントラストの配慮がないので、ロービジョンの人には見にくい場合がある。
凸のついている家電製品、事務機械 (コピー機・複合機等)、情報機器 (スマートホン、パソコン等)	オンとオフでは、オンに点がある商品はある。でも、例えば洗濯機には点字表記がない。オンとオフのボタンの大きさを変えてある。マレーシアの会社製のパソコンキーボードには、JとFに点がついている。スマホは、アップル社か韓国の会社からきているので、その会社の配慮がそのままマレーシアにも入ってきている。マレーシア製のスマホはない。
視覚的な表示だけでなく、光や振動で各種事項を知らせる機器	振動や光のはない。 音声もない。ただし、外国からも商品は、その国の会社が音声をつけていれば、マレーシアもその状態で入ってくる。
視覚的な表示だけでなく、音や音声で各種事項を知らせる機器	ATMはすべてタッチパネルなので、窓口でおろすか、ATMを誰かに操作してもらう必要がある。インターネットバンキングを利用している。セキュリティや暗証番号は銀行によるが、みんながコロナの後に現金を使わない方向になっているので、それほど不便は感じない。お買い物はデビットカードで支払いする。スマホのアプリを使って払うこともできる。QRコード決済。 ITが苦手な人たちは、現金で払っている。銀行の通帳だけを持っていて、窓口でおろす。銀行の人が代筆してくれる。代筆は、銀行のルールになっている。
視覚に障害があっても、操作できる家電製品、日常生活用製品、設備機器	—
聴覚に障害があっても、操作できる家電製品、日常生活用製品、設備機器	洗濯機は、車いす使用者も使えるように、ドラム式のもので、マレーシアの会社製も、外国製もある。
車椅子使用でも、操作できる家電製品、日常生活用製品、設備機器	—
上肢に障害があっても、操作できる家電製品、日常生活用製品、設備機器	—

<p>障害者・高齢者等に便利な交通機関</p>	<p>電車の駅では、点字ブロックもあるし、電車内のアナウンスもあるので便利。階段やエレベーターやエスカレーターがある位置に、日本のような音がないのが不便。</p> <p>地下鉄も電車と同じだが、地下鉄のホームから改札までの点字ブロックが、とても遠回りです歩きにくい。点字ブロックをたどっても、改札が見つけれられないこともある。</p> <p>切符は窓口で買う。券売機はすべてタッチパネル。ボタンはあるが、点字表示がないので、何のボタンかわからない。</p> <p>3年前から、政府はマレーシア国の ID カードに50リンギット（2千円ぐらい）を毎月チャージすれば、電車とバスと地下鉄が乗り放題という ID カードサービスを始めた。改札でタッチする。マレーシア国民としての ID を持っている人たちだけが対象。マレーシアは、シンガポール、タイなど近隣諸国からの労働人口が多い国である。</p> <p>バスは、バス停で待っていても、行先の音声案内がないので、まったくわからない。バス停に止まる位置もまちまちだし、バスを止めるのも一人では難しい。周りの人に助けてもらわないと乗れない。頼んだ人のバスが先に来ると、また別の人に頼むしかない。</p> <p>首都のクアラルンプールでは、1～2つのルートには、バスの車内アナウンスをしている会社もできた。それは政府のバスなので、そういう配慮があるかもしれない。</p>
<p>障害者・高齢者等に便利なサービス等</p>	<p>ない。個人的に親切な人はいるが、会社などの組織でトレーニングをしていることはない。外国人の店員さんも多いので、コミュニケーション自体が難しかったりする。</p>
<p>共用品・共用サービスに関連する団体</p>	<p>全体としてはない。視覚障害者の場合には、視覚障害者がたくさんいるところには UD がある。</p> <p>政府が決めて整備を行う。視覚障害者の団体は、政府にお願いして整備してもらう。</p> <p>日本のような団体はない。</p> <p>国連の障害者権利条約は批准している。</p> <p>→共用品が普及することを希望する。例えば、新しいビルを建てる場合には、決められた UD 整備が義務付けられている。これは法律で決まっているので、要件を満たさないと、建築許可が下りない。このようなレベルを望む。</p> <p>国連の障害者権利条約で出されたことは、やってほしい。例えば、交通やガイドサービスをもっと充実させてほしい。マレーシアでは政府主導なので、政府がルールをつくって命令すれば、みんなやってくれると思う。</p> <p>声を届けるチャンネルはたくさんあったほうがいいので、日本のようなやり方をマレーシアにもやってほしい。でもそのためには、政府がルールをつくって、UD をやってくださいと命令する必要がある。</p>

「ー」～ 回答なし

6.1.10 インドネシア共和国 フローレス島 23年1/5 オンライン (Zoom)

<女性、30代、全盲、マッサージ店の経営者>

項目	内容
同じ形状の中身が異なる容器で、触ってその違いが分かる包装容器	マッサージオイルの外箱に点字で製品の名前が書かれてあるものがあった。(1種類)。インドネシアで自分が買ったものの中ではこれぐらい。中身がわからない時には、においや、誰かに見てもらったりしている。
表示されている文字が、通常より大きく書かれておりコントラストもはっきりしている包装容器	箱に大きく書いてあるという話しはあまり聞かないが、ルーペを使って文字を読んでいる話はよく聞く。メガネを使っている場合もある。大きな文字の製品は、私の周りではあまり聞かない。
凸のついている家電製品、事務機械(コピー機・複合機等)、情報機器(スマートホン、パソコン等)	インドネシアのパソコンにはJとFに点がついている。電話やATMの「5」「8」に点がついている機械が多い。ほかのキーで自分が目印にしたいキーには、自分で印を貼ったりしている。
視覚的な表示だけでなく、光や振動で各種事項を知らせる機器	音声の製品は、パソコン以外にはあまりない。ATMの音声はあるが、周りに聞こえてしまうような声で取引の内容をしゃべるので、privacyが守れない。それでなくても、視覚障害者は周りからみられていて、なぜ一人でスーパーに来るのか?誰と暮らすのか?生ものを買って大丈夫か?料理は自分でつくれるのか?など立ち入ったことを聞かれるので、それだけでも大変なのに、銀行のATMが大声でしゃべると本当にprivacyがなくなってしまう。機械の音声は英語なので、インドネシア語になっていないので不便。どれが英語で、どれがインドネシア語の機械かわからない。
視覚的な表示だけでなく、音や音声で各種事項を知らせる機器	
視覚に障害があっても、操作できる家電製品、日常生活用製品、設備機器	
聴覚に障害があっても、操作できる家電製品、日常生活用製品、設備機器	—
車椅子使用でも、操作できる家電製品、日常生活用製品、設備機器	洗濯機を使う人は50パーセントぐらいなので、ドラム式はあまり見たことがない。スコールの後にさっと手洗いする人が多いので、洗濯機自体あまり必要がない。
上肢に障害があっても、操作できる家電製品、日常生活用製品、設備機器	—
障害者・高齢者等に便利な交通機関	島に住んでいるので、鉄道や地下鉄はない。バス、バイクタクシーを使っているが、バスの時間が読めないのが、バイクタクシーが良い。車のタクシーがあるが、値段が高い。バイクタクシーはスマホのアプリで予約して使う。でも自分は、よく知っているドライバーを予約する。安全と自分をよく知っていて適切な配慮をしてくれるから。私たちがよく理解してくれるドライバーを、2名以上見つけることが一番の道。こちらでは、ほとんどの人が障害者はかわいそうと思っているので、私たち当事者から自分たちは障害があってもできる、普通に暮らしていると見せないといけない。
障害者・高齢者等に便利なサービス等	最近、インドネシアでは障害者の人たちのためのサービス(お店、病院、銀行など)が出てきた。だから一人で行っても(ボランティアと行かなくても)大丈夫になってきた。障害者のための設備もあるし、人も親切になった。一人で行っても、必要なサービスは用意してくれる。時分はよくわからないが、たぶんインドネシア政府が、国連の障害者権利条約を批准しているのではないかな?

<p>共用品・共用サービス に関連する団体</p>	<p>特別な団体はないと思う。会社などが視覚障害者を呼んで意見を聞くことはある。</p> <p>政治に関係したことが主になっている。島で観光産業が盛んなので、そういう点から自分も一度呼ばれて、ホテル、旅行会社などの会社や地元の政府の人たちに、日本のUDを話したことがある。観光のためにUD整備がされてきているので、周りの人からは、私一人で行っても大丈夫とは言われている。こちらの点字ブロックは誘導ブロックしかない。警告ブロックはない。</p> <p>来月は選挙があるので、選挙のためには障害者にどうしたらいいか？意見を聞かれている。</p> <p>→共用品が普及することを望む。私たちの意見も大事だが、やはり政府の財政がカギだと思う。また、政治家によるところが大きい。UDに理解のある政治家のときはいいけれど、変わってしまって関心がない人になると何もやらなくなる。会社は、障害のある人たちというよりは、自分のプロジェクトのために意見を聞くというのが主な目的。政府の財政がないと、声を出しても聞いてもらえない。日本で自分でできることがたくさんできたので、インドネシアでも自分でできることが増えるのはとても良い。自分でできれば、好きな時に行けるし、並ばなくていいし、自由だ。</p>
-------------------------------	---

「-」～ 回答なし

6.1.11 ネパール連邦民主共和国 23年1/20 オンライン (Zoom)

<女性、40代、車いす使用 (脊髄損傷)、主婦 (結婚して日本在住)、ネパールではリハビリテーション病院でピアカウンセラー>

項目	内容
同じ形状の中身が異なる容器で、触ってその違いが分かる包装容器	海外からの輸入品には、点字がついていたり、触ってわかる印がついているものを見かけるが、ネパールの会社製のものでは見たことがない。
表示されている文字が、通常より大きく書かれておりコントラストもはっきりしている包装容器	—
凸のついている家電製品、事務機械 (コピー機・複合機等)、情報機器 (スマートホン、パソコン等)	自分でわかるように印をつけることはあるが、製品そのものに印がついているものは、ネパール製では見たことがない。公共機関でも使われているのを見たことがない。 デスクトップパソコンのJとFに触ってわかる印がついていた。ネパール製ではない。
視覚的な表示だけでなく、光や振動で各種事項を知らせる機器	—
視覚的な表示だけでなく、音や音声で各種事項を知らせる機器	
視覚に障害があっても、操作できる家電製品、日常生活用製品、設備機器	
聴覚に障害があっても、操作できる家電製品、日常生活用製品、設備機器	—
車椅子使用でも、操作できる家電製品、日常生活用製品、設備機器	30年近く車いすを利用しているが、一度も一人で、ATMでお金をおろしたことがない。画面の位置が高すぎる、画面に手が届かない、車いすで機械に近づけない (階段がある、画面に近づけない) ために使えない。最近、観光地では段差がないATMがある銀行があると、友人に聞いた。一般的に、ATMをネパールで使い始めたのはここ10年。 家の洗濯機は日立でドラム式、点字も入っていた。ドラム式は少し価格が高い。ネパールの会社はほとんどが普通のタイプで、ドラム式は海外の会社製。 エレベーターはあるが少ない。カトマンズでも4つぐらい。スーパーにある。自分がネパールに住んでいたころは、一日8時間以上停電があった時代なので、あっても稼働していないことが多かった。
上肢に障害があっても、操作できる家電製品、日常生活用製品、設備機器	—
障害者・高齢者等に便利な交通機関	ネパールには電車がなく、ほとんどがバスとタクシー。車いすで乗れるタクシーは、カトマンズで1台しかない。ネパールでは、みんなが手を貸してくれる。整備は整っていないけれども、誰かが声をかけて助けてくれる。階段も、何人かが車いすを運んでくれる。カトマンズには、障害者の自立生活センターがある。リフト式の障害者用車両もある。ポカラには自立センターはなく、市役所にリフト付きタクシーの導入を働きかけている。
障害者・高齢者等に便利なサービス等	最近、市役所にはスロープがあるところが増えてきた。お店は、一階なら平だから入れる。車いすであることを告げると、銀行などで下まで降りて来てくれて、上に車いすをあげてくれたり、書類を自分がいるところまで持ってきてくれて、

	<p>手続きしたということがある。昔はなかったが、テレビやラジオで、日本でいう共生社会にしましょうというお知らせなどを行っている。聴覚障害のための手話通訳をつけている役所もあると聞いた。</p>
<p>共用品・共用サービス に関連する団体</p>	<p>ある。最近いろいろとできてきている。NPOなどの当事者団体。日本に来て（JICA、ダスキンなどの研修を受けた人たちが中心になっている。）会社でやるよりも、みんなと一緒にやる人が、少しずつ出てきたという感じ。 →共用品が普及することを望む。「ユニバーサルデザインって何・」ということから、みんなに知ってもらう必要がある。 障害者や高齢者のためのものではなくて、みんなに便利なものだということを、知らせないといけない。 制度化したら、かなり進んでいくのではないかと思う。みんな、それぞれの立場で、それぞれに頑張っているけれども、制度になっていないと、バラバラで進まない。進まないと、何も変わらないし、変わるスピードも遅くなってしまふ。 例えば、車いすをつくっている会社もないし、政府からの補助もない。材料は、インドや中国から調達するしかなく、車いすをつくっても買う見込みがなければ成り立たない。だから、制度がまず必要だと考える。</p>

「ー」～ 回答なし

6.1.12 キルギス共和国 ビシュケク 23年1/11 オンライン (Zoom)

<女性、30代、左眼→全盲、右眼→近づけばものの形がわかる（文字は見えない）、マッサージ師、視覚障害者団体の活動>

項目	内容
同じ形状の中身が異なる容器で、触ってその違いが分かる包装容器	今まで見たことがない。視覚障害者のために考えられた製品はキルギスの会社にはない。家族に見てもらう。 日本に行く前のことだが、菓のパッケージに点字（ロシア語）がついているものが、1つだけあった。感動したことを覚えている。
表示されている文字が、通常より大きく書かれておりコントラストもはっきりしている包装容器	見たことはない。周りから聞いたこともない。
凸のついている家電製品、事務機械（コピー機・複合機等）、情報機器（スマートホン、パソコン等）	自分が使っているテレビのリモコンの「5」のところに、点がついている。パソコンのキーボードのJとFに、触ってわかる印がついている。
視覚的な表示だけでなく、光や振動で各種事項を知らせる機器	音声でしゃべって教えてくれる体温計や血圧計がある。 キルギスの銀行のATMは、視覚障害者には使えないので、窓口に行くしかない。
視覚的な表示だけでなく、音や音声で各種事項を知らせる機器	サインもしなければおろせないのが大変。銀行員に手を取ってもらって、書くところを教えてもらいながら手続している。家族にやってもらうこともできるが、privacyが守れないのでいやだ。日本のATMに慣れてしまったので、自分でお金をおろせないのが、本当に困る。
視覚に障害があっても、操作できる家電製品、日常生活用製品、設備機器	電子レンジで、ロシア語で話してくれる機種があるが、高い。ロシアから買うことができるらしい。
聴覚に障害があっても、操作できる家電製品、日常生活用製品、設備機器	—
車椅子使用でも、操作できる家電製品、日常生活用製品、設備機器	キルギスの洗濯機はすべてドラム式。これはちょっと高い。上から入れる洗濯機は二層式しかない。
上肢に障害があっても、操作できる家電製品、日常生活用製品、設備機器	—
障害者・高齢者等に便利な交通機関	バスとトロリーバスとミニバスを利用することが多く、直接運転手さんにお金を渡す。切符の券売機はない。 バスなら、障害を持っている人のためのカードがある。カードをタッチする場所が決まっていないので使いにくくて、お金を払ったほうが早い。 トロリーバス（全部ではなくてたまに）車いすも乗れるのがあって、そのバスは車内アナウンスでバス停を教えてくれる。 キルギス政府が、バスを買うときに、障害者のことを何も考えないからだと思う。 運転手さんや周りの人たちの考えによって、せつかくの車内アナウンスを消してしまうこともある。迷惑だからという理由で。 鉄道は、首都以外の遠くに行くときにつかうので、直接窓口で買う。
障害者・高齢者等に便利なサービス等	キルギスでは、視覚障害者と聴覚障害者のために、国から家が支給されている。そこの近くのレストランの人たちはすごく慣れていて、いろいろ親切に教えてくれる。スーパーも、店員さんが慣れていて、お金を手渡ししてくれたり、お金を見てくれたりする。

	<p>でも、これらのマンションから離れると、まったくそういうサービスはないし、周りの人も白杖を持っていれば声をかけてくれたりはするが、一般的に慣れていない。</p> <p>視覚障害者が多く使っている病院は、慣れているので適切にサービスしてくれるが、あまり使っていないところでは、何もサービスはない。</p> <p>視覚障害者が多いところでは、店員さんの慣れでサービスが良い。それ以外は、まったくない。店員さんの教育はしていないと思う。</p>
<p>共用品・共用サービス に関連する団体</p>	<p>ないと思う。今私が、視覚障害者に日本のことを、共用品も含めていろいろ話している。「いいですね」という人はいるが、協力してやっていこうというレベルではない。</p> <p>→共用品が普及することを望む。まず、同じ考えを持って、一緒に活動してくれる人が必要。アンケートなどで調査をしてから、みんなの意見を集約して、考えていきたい。お金の問題が多い。</p> <p>それから、障害者だけではなく、障害のない人と一緒に勉強会が必要だと思う。キルギスでは、障害のある人たちに対して、やさしい人たちは多いと思う。一般市民の中には、こちらから動けば一緒にやってくれる人や考えてくれる人たちが（多いとは言わないが）必ずいるので、政府に頼むよりも良い方法だと思う。</p> <p>政府には、かっこいい名前の法律はたくさんあると聞いたが、実行されていない。この法律を実行すれば、キルギスはもっと発展しているはずだと思う。かっこいい名前の法律があることで、政府の人たちは「（本当はやっていないのに）やっています」ということにしている。大統領から指示があったり、怒られたら、やるかもしれない。</p>

「ー」～ 回答なし

6.1.13 ケニア共和国 ナイロビ 23年1/12 オンライン (Line 音声通話)

<女性、50代、全盲、マッサージ師>

項目	内容
同じ形状の中身が異なる容器で、触ってその違いが分かる包装容器	菓に点字表示（英語）があるものを見たことがある。それは海外でつくられた菓。
表示されている文字が、通常より大きく書かれておりコントラストもはっきりしている包装容器	ない。視覚障害者のことを会社は全然知らないので、ものをつくるときには考えていない。
凸のついている家電製品、事務機械（コピー機・複合機等）、情報機器（スマートホン、パソコン等）	ない。印はないけれども、上にあればオンかなという自分の感覚でわかる。リモコンや昔の携帯電話には、「5」の点がついていたものを見たことがある。たぶん、海外でつくっているからだと思う。パソコンは使っていないので、よくわからない。
視覚的な表示だけでなく、光や振動で各種事項を知らせる機器	少ないけれども、エレベーターの音声案内は聞いたことがある。新しい高いビルの事務所。
視覚的な表示だけでなく、音や音声で各種事項を知らせる機器	ATMは使ったことがなく、銀行のカウンターで願う。一人では行かない。誰かと一緒に行って、その人か銀行の人で願う。日本のように受話器で操作する機械はなくて、タッチスクリーンだと思う。
視覚に障害があっても、操作できる家電製品、日常生活用製品、設備機器	券売機はなくて、オンラインで買うか、直接窓口で買う。 バスは、運転手に直接お金を払う。 洗濯機はあまり使わない。一般のケニア人は手洗いしている。
聴覚に障害があっても、操作できる家電製品、日常生活用製品、設備機器	—
車椅子使用でも、操作できる家電製品、日常生活用製品、設備機器	—
上肢に障害があっても、操作できる家電製品、日常生活用製品、設備機器	—
障害者・高齢者等に便利な交通機関	小さいバスがある。14人ぐらい乗れる大きさ。行先や、次に止まるバス停を、車掌さんが大きな声でいうので使いやすい。車掌さんに降りるバス停を言いやすいのも良い。大きなバスよりもそういう点で使いやすい。値段は大きなバスのほうが安い。大きなバスだと、後ろに乗ってしまうと、おろしてほしいバス停を大声で伝えても、聞こえないこともある。
障害者・高齢者等に便利なサービス等	銀行、病院、スーパーなど、並ばなければいけないが、視覚障害者だと気づくと並ばなくてもいいし、すぐにサービスをやってくれる。何も言わないと何もやってくれないが、自分から言えばそういうサービスをやってくれる。それは、障害者に対しては、そうするように憲法（法律）に書いてある。 ★補足:国連の障害者権利条約の合理的配慮と思われる。 会社としてトレーニングをしているわけではなくて、その人の考えや、こちらから説明をしてやってもらう。

<p>共用品・共用サービス に関連する団体</p>	<p>障害者の福祉関係のグループはあるが、そこがどれぐらいUDについてやっているのか、よくわからない。 →共用品が普及することを望む。私はいつも考えている。視覚障害者自身が運動をしないといけないと思う。政府と一緒にあって、こういうことが変わればもっと私たちはよくなるということを伝えて、やっていく必要がある。私が日本にいたから、UDのことを知っていて、UDを取り入れたいという考えになれる。海外に行ったことのない障害者は、ピンとこないと思う。 政府はそういう考えがないので、あまりやらないと思う。お金の問題ではなくて、そういう考えがない。一つのことを変えるのに、すごく時間がかかる。一般的にルールがあっても、警察に捕まるぐらいのことがないと守らない。例えば、コロナ禍でマスク着用が義務になっても、警察につかまらなないと、ほとんどの人がマスクをしなかった。 政府よりも、NGOなどと一緒になるほうがいいかもしれないと思う。 ケニアも、日本と一緒にできればいいと、私個人としては思う。</p>
-------------------------------	--

「ー」～ 回答なし

以上

6.2 アジア9か国調査

調査者

佐野竜平（法政大学現代福祉学部 教授）

調査国

国名	人口	1人当たり GDP (USD)	平均寿命
インド	1,407,563,840 人	2,256.6	70
インドネシア	273,753,190 人	4,332.7	69
マレーシア	33,573,870 人	11,109.3	76
モンゴル	3,347,780 人	4,566.1	72
ネパール	30,034,990 人	1,208.2	69
パキスタン	231,402,120 人	1,505.0	66
フィリピン	113,880,330 人	3,460.5	72
シンガポール	5,453,570 人	72,794.0	84
ベトナム	97,468,030 人	3,756.5	75

調査方法

現地での観察、現地関係者からの聞き取り、質問紙による回答

調査期間

2022年11月～2023年2月

調査結果

原資料を6.2.1～6.2.4に記載

6.2.1 現地のスーパーマーケット、コンビニ、小売り店、通販等で、下記の商品があるかの確認

A. 表示に関する配慮がある製品の有無

1) 包装容器（各種パッケージ）：

同じ形状で、中身が異なる容器で、触ってその違いが分かるモノの有無

（例）側面、上部等に、ギザギザがあってリンス容器と識別できるシャンプー容器

（例）点字が表示されている各種包装容器（調味料、ジャム等）



■ 有り ■ 無し

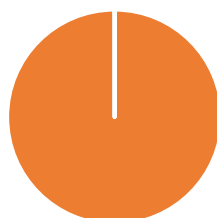
国名	有無	コメント/備考
インド	○	シャワージェル (Fiama Shower Gel) で使用可能なものあり
インドネシア	×	インドネシアでは、障がい者向けの製品に違いはない。製品はまだ一般的なもの。
マレーシア	×	これまで現地で販売されている製品を消費してきたが、製品の種類、風味、毒性、味、成分、価格などを区別するのに役立つ点字ラベルやマークが付いたパッケージに出会ったことがない。
モンゴル	×	特になし
ネパール	×	特になし
パキスタン	×	特になし
フィリピン	×	特になし
シンガポール	×	Enabling Village にあるスーパーマーケットでは、そのような商品を見つけることができなかった。このスーパーマーケットは、シンガポール最大のスーパーマーケットである NTUC が運営しているため、各種製品が一般に入手可能である。しかし、シャンプーとコンディショナーのサンプル写真のように、色以外、パッケージには何の違いもない。これでは視覚障害者にとっては役に立たない。

		 <p>黄色とオレンジのボトルには、点字やデザインの触覚がなく、区別できない。ポンプやキャップのデザインは100%同じ。</p>  <p>同様に、Dove ブランドのトイレタリー製品は、（色以外の）物理的なデザインは100%同じ、差別化されていない。</p>
ベトナム	×	シャンプーやコンディショナーの容器は、見た目が全く同じで、触ってもなかなかわからない。ほとんどのものが同じ形に梱包されている。



2) 包装容器（各種パッケージ）：

表示されている文字が、通常より大きく書かれておりコントラストもはっきりしている容器



■ 有り ■ 無し

国名	有無	コメント/備考
インド	×	特になし
インドネシア	×	パッケージの容器は、やはり万人向けが一般的。

マレーシア	×	ほとんどの場合、視覚障害を持つ特定の消費者グループに対応するのではなく、一般消費者にアピールするために作られている。
モンゴル	×	特になし
ネパール	×	特になし
パキスタン	×	特になし
フィリピン	×	特になし
シンガポール	×	見かけない。デザインは美観に大きく左右されている。
ベトナム	×	特になし

3) 家電製品、事務機械（コピー機・複合機等）、情報機器（スマホ、パソコン、等）

スイッチ：ON-OFF が、視覚障害者にも分かるように、ON 側に凸が付いている

国名	有無	コメント/備考
インド	○	コピーマシン、パソコン（ノート型、デスクトップ）で見たことがある
インドネシア	○	スマートフォンはまだ一般的なもの。しかし、障害者にアクセシブルなアプリケーションや、障害者にアクセシブルに設定できるメニューが存在する。例えば、アクセシビリティの設定メニューにある「トークバック」は、テキストを読み上げることができるので、目の不自由な方にも利用しやすい。 聴覚障害者には、音声を録音してテキストに変換できるインスタントトランスクリプション (transkripsi instan) というアプリケーションがあり、このアプリケーションは聴覚障害者が頻繁に使用している。手話がなくても、すべての音声を理解することができる。
マレーシア	○	メーカーによっては、スイッチやフロントパネルに凸型や隆起型のボタンがない場合もあるが、多くのメーカーは、スイッチやフロントパネルにアクセスしやすく、使いやすい工夫を凝らしている。例えば、携帯電話の場合、オン・オフ、ボリュームアップ、ホームボタンなどのスイッチが盛り上がっている。また、洗濯機、プリンター、給湯器、テレビ、ラジオ、DVD プレーヤー、スピーカー、パソコンなどは、フロントパネルに凸型のスイッチや突起のあるボタンが使われている。しかし、カーラジオや冷蔵庫、LED テレビなど、最新のタッチパネル機器には、これらの設備はない。
モンゴル	×	特になし

ネパール	×	特になし
パキスタン	×	特になし
フィリピン	×	特になし
シンガポール	△	プリンターの場合、確かに ON ボタンに凸がある。しかし、それ以上に、ほとんどのプリンターが LED タッチパネルを搭載しており、弱視の方には不親切な設計になっている。また、パネルが腰の高さにあるため、車いすの方はパネルに手が届きにくい。
ベトナム	△	<p>最近のビルでは、ボタンに点字があるエレベーターもありますが、ほとんどのエレベーターは、ドアが開いたり、階数を知らせたりする音がないので、視覚障がい者に知らせることができません。</p>  <p>スイッチには視覚的なサインがある。</p>

- 4) 視覚的な表示だけでなく、光や振動で各種事項を知らせる機器
(例) タイマー、体温計、その他



国名	有無	コメント/備考
インド	○	タイマーもあるが、コストがかかる

インドネシア	○	温度計など、ビジュアルだけでなく、音も出るものもある。携帯電話も音声とバイブレーションがある。湯沸かし器も音が出る。
マレーシア	×	これらの機器はすべて、アクセシブルな操作パネルが装備されていない。音声出力、サウンド出力、クリアバイブレーションが装備されているものを除き、視覚障害者に優しいものではない。
モンゴル	×	特になし
ネパール	×	特になし
パキスタン	×	特になし
フィリピン	×	特になし
シンガポール	○	温度計やタイマーはビープ音が鳴るが、振動は出ない。
ベトナム	×	特になし

5) 視覚的な表示だけでなく、音や音声で各種事項を知らせる機器

(例) 各種家電製品、ATM、自動券売機

国名	有無	コメント/備考
インド	○	小さな空港や駅では利用できない。多くの駅や空港では、現在進行形である。
インドネシア	×	特になし
マレーシア	×	この種の機器にめったに見ない。最近では、利用しやすいATMや自動販売機を提供する取り組みが行われているが、まだ数が少ない。特定の場所でしか利用できないため、私は経験したことがない。
モンゴル	×	特になし
ネパール	×	特になし
パキスタン	×	光と音の両方で警告する機器はほとんどない。
フィリピン	○	ATM、エレベーターがある
シンガポール	○	視覚障がい者のために設計された「しゃべるATM」は、シンガポール全土に設置されている。DBS（シンガポール開発銀行）、UOB（ユナイテッド・オーバーシーズ銀行）など、主要な銀行が案内している（視覚障害者用トーキングATM POSB シンガポール、UOB：視覚障がい者対応ATM） 利用者はイヤホンを持参する。使用中は自動的に画面が消え、他の客に画面が見えないようになっている。 視覚障がいのある客は、目の見える人の手を借りなければ、こ

		の ATM の場所がわからないという限界がある。改善すべき点もある。「UOB ATM の機械は右側にあります」という音声案内を設置するのが理想的。
ベトナム	×	特になし

B. 操作に関する配慮がある製品の有無

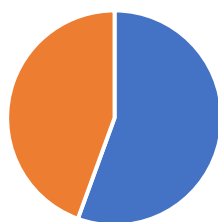
1) 視覚に障害があっても、操作できる家電製品、日常生活用製品、設備機器



■ 有り ■ 無し

国名	有無	コメント/備考
インド	×	特になし
インドネシア	○	例として 湯沸かし器のケトルも音でわかる
マレーシア	×	これらの製品は、Amazon などのオンラインショップで購入しない限り、地元の市場からは入手できない。マレーシアの障害者にとっては一般的ではない。特に目の不自由な方は、値段が高いからか、そのような家電があることを知らないのか、なぜかオンラインでは購入しない。
モンゴル	×	特になし
ネパール	×	特になし
パキスタン	×	特になし
フィリピン	○	エレベーター、ATM、パソコン、時計、スマートフォン
シンガポール	×	量販店では手に入らない。そのため、これらの製品を輸入している専門店を訪ねる必要がある。
ベトナム	×	特になし

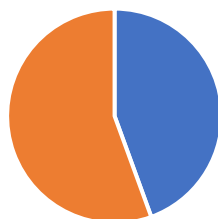
2) 聴覚に障害があっても、操作できる家電製品、日常生活用品、設備機器



■ 有り ■ 無し

国名	有無	コメント/備考
インド	○	視覚的に見えていても、バイブレーターや、光の仕掛けがあれば、もっと便利になる。
インドネシア	○	聴覚障害者の場合、家電製品、日常生活用品、機器などの操作に特に困難はない。
マレーシア	○	聴覚障害者は、音声出力や指示の恩恵を受けられないことを除けば、健常者と同じように機器や電化製品を読み、操作することができる。アクセシビリティに関する重大な問題に直面することはない。
モンゴル	×	特になし
ネパール	×	特になし
パキスタン	×	特になし
フィリピン	○	特になし
シンガポール	×	特になし
ベトナム	○	聴覚障害者は、家電製品に文字や画像が書かれているため、見て操作方法を知ることができる

3) 車椅子使用でも、操作できる家電製品、日常生活用品、設備機器

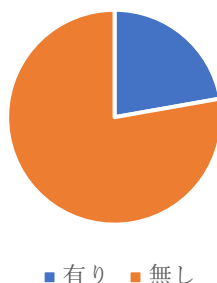


■ 有り ■ 無し

国名	有無	コメント/備考
インド	×	特になし
インドネシア	○	車いす使用者は、日常生活用品や機器の使用において、特別な

		困難はない。むしろ、持ち運びが大変なことの方が多く、使用上の困難はない。
マレーシア	○	車椅子が届かない場所に設置されていない限り、すべての機器や電気製品は車椅子ユーザーにとって完全にアクセシブルで使用可能。これは製品のアクセシビリティとは直接関係なく、バリアフリー環境や建築環境のアクセシビリティ問題と関係。つまり、製品やサービスのアクセシビリティについて語る時、それらは構築された環境と結びついている。最高の環境とは、ユニバーサルデザインの環境。
モンゴル	○	レータス社は、車いす用階段昇降機などの機器を提供。
ネパール	×	特になし
パキスタン	×	特になし
フィリピン	○	特になし
シンガポール	×	WRAEK および Werables の製品の一部は、車椅子利用者も適用可能な場合がある。
ベトナム	×	特になし

4) 上肢に障害があっても、操作できる家電製品、日常生活用品、設備機器



国名	有無	コメント/備考
インド	×	特になし
インドネシア	○	上肢障がい者は、日常生活用品や機器の使用に特別な困難はない。むしろ、持ち運びが大変なことの方が多く、使用上の困難はない。
マレーシア	×	よくわからない。ほとんどの製品が手で操作するものであるため、足や音声、顔認識で操作できる場合を除き、ほとんどの機器や家電が不親切。
モンゴル	×	特になし
ネパール	×	特になし
パキスタン	×	特になし

フィリピン	×	特になし
シンガポール	○	WRAEK は、障害のある人が使えるキーボードの製作を検討している。脳卒中サポートステーションにも相談がある。 その他、障害者用の服もある（ただし、華やかな夜会服で、自宅やカジュアルな服ではない）。また、片手しか使えない人のための画期的な製品もある。
ベトナム	×	特になし

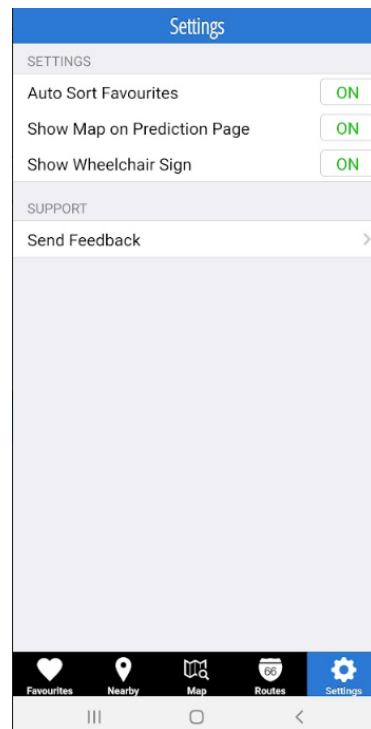
6.2.2 公共交通関係

1) 障害者・高齢者等が利用するにあたって便利なモノやコト

国名	コメント/備考
インド	重要な路線では数台のボルボ・バスで利用でき、Ola や Uber のサービスもある。
インドネシア	すべての公共交通機関が障害者のために利用しやすいわけではない。電車は、まだ障害者が完全に利用できるものではない。車いすで利用できるトイレもない。また、障がい者用の特別な職員もまだいない。障害者のための運行サービス手順が標準化されていない。車椅子の搭載例、列車に車椅子を置くための特別な場所があるかどうかはわからない。 飛行機での移動の場合、すべての航空会社が障がい者用の車椅子サービスを無償で提供しているわけではない。また、航空会社によっては、車いすを有料で提供しているところもある。また、電動車いすを利用する場合、すべての担当者が電動車いすでの移動が可能であることを理解しているわけではない。複雑な手続きが必要になる。また、手荷物料金の有無など、障がい者サービスに関する標準的な運用方法は、すべての航空会社で統一されているわけではない。バス交通機関では、バリアフリー化されていない停留所がまだ多く、障がい者の利用が困難な状況。 例：公共バスのバリアフリー化問題



マレーシア	交通手段や場所によっては、ある程度利用しやすい。
モンゴル	公共交通機関には、障害者や高齢者のためのアイコンがついた座席がある。
ネパール	一般車両はほとんどバリアフリー化されていない
パキスタン	障害者や高齢者のための優先・指定席がある。三輪車、バス、ジプニー、電車、船などの公共交通機関は車椅子で利用できない。
フィリピン	特になし
シンガポール	鉄道：鉄道の駅はすべて一つの団体によって管理されているため、アクセシビリティの面でも統一されている。一般的に、視覚に障がいのある方を誘導する点字ブロック、全駅的車椅子対応（エレベーター、スロープ）、エレベーターのボタンに点字板が設置されている。以下で紹介アクセシビリティ（smrttrains.com.sg）。



改善すべき点は以下の通り。

(a) 券売機やトイレに誘導する音声案内を設置すること。
(b) 券売機が視覚障害者に優しくないため、そのような利用者は駅係員に声をかけてカードを補充しなければならない。他のほとんどの取引（90%以上）はセルフサービスの自動販売機で処理されるため、駅係員と話す列は通常非常に短い。

シンガポール人は、視覚障害者や特別なニーズのある方には道を譲り、先に係員と話すのが一般的である。しかし、障害のある利用者のバリアを取り除き、公平にするということであれば、発券機のアップグレードはもっとできるはず。

(c) 近年、券売機のデザインは改善され、高齢者、車いす使用者、子供にとって有益なものとなっている。機械の高さは低くなり、画面は大きくなり、カード金額の補充や払い戻しなど、すべてのプロセスは非常に単純化され、わかりやすくなっている。

バス：最大のバス会社である SMRT は、バスターミナルと障害者のためのバリアフリーに関する情報を提供している。注意しなければならないのは、すべてのバスに車椅子用のスロープが設置されているわけではないこと。つまり、車いす利用者は、タイミング的に効率的な交通手段を平等に利用できないため、移動に多くの時間を考慮しなければならな

	<p>い。しかし、バスの到着時刻を表示する人気のアプリには、車いす対応バスの到着時刻を表示する設定がある。</p> <p>最近、大学生のグループが、視覚障害者や高齢者向けのバスアプリをデザインした。このアプリはまだ試作品。</p> <p>バス停には、視覚障害者がどの番号のバスが到着したかを知らせる音声案内が設置されていない。ほとんどの場合、目の見える利用者が視覚障害者に気を配ることになる。バス停に誰もいない場合、バスの運転手は通常、ドアを開けて自分の番号を言い、視覚障害者がバスを待っているかどうかを確認する。</p>
ベトナム	<p>都心の大通りには視覚障害者のための触覚舗装が施されているところもあるが、すべての通りではない。信号機には、視覚障害者が道を渡れるかどうか知らせるための音がない。</p>  

	  <p data-bbox="448 703 1136 736">地元のお店には車いすで使える家電がほとんどない。</p>
--	---

2) 障害者・高齢者等が利用するにあたって工夫しているモノやコト

国名	コメント/備考
インド	一部のバス車内では、今後のバス停留所や行き先についてのアナウンスが流れる。
インドネシア	例えば、ホテルでのバリアフリートイレの有無もまだ問題。すべてのホテルにバリアフリートイレが設置されているわけではない。
マレーシア	E-hailing サービスは、障害のある人が便利に利用できるのが一般的。仲介事業 (e-hailing) とは、電子アプリケーションを利用して公共交通機関の予約を行うサービス。このサービスには、e-hailing 車両とタクシーが含まれる。e-hailing 車両とは、電子アプリケーションを通じて予約した乗客に公共交通サービスを提供するために使用される自家用車のこと。車両は、4人乗りで、11人以下（運転手を含む）の自動車でなければならない。e-hailing サービスの運営は、サバ州、サラワク州を含むマレーシア全土で行われている。
モンゴル	公共交通機関を無料で利用できること
ネパール	ほとんどなし
パキスタン	バスは不便。タクシーなど他の交通機関は大丈夫だが、オンライン予約は聴覚障害者にとってはバリアがあり、視覚障害者にとっても同じ。
フィリピン	障がい者・高齢者の方が専用に優良商品を購入する場合、5%の割引が適用されます。
シンガポール	特になし
ベトナム	障がい者や高齢者用に知恵を絞った商品・サービスがない。

3) その他

国名	コメント/備考
インド	特になし
インドネシア	観光地も、高齢者や障がい者にとってはまだまだ行きにくい場所。観光地にはバリアフリーのトイレがないのが主な原因。
マレーシア	アクセシビリティは最初から組み込むべきであり、後付けで考えるべきではない。
モンゴル	特になし
ネパール	特になし
パキスタン	特になし
フィリピン	歩道は車いすでは通行できない。ジープニーをバリアフリーにする案もあったが、実現せず現在に至っている。障害者とその家族が、車いす使用者のために三輪車をデザインし、即興で作っている。
シンガポール	高齢者・障害者は交通カード（SUICAのようなもの）で信号機をタップすると、横断時間が長くなる。
ベトナム	特になし

6.2.3 共用品・共用サービスの普及を行っている団体の有無

(1) 上記のA・Bの普及を行っている障害者団体（視覚、聴覚、肢体不自由、他）・高齢者団体・NPOの有無



国名	有無	コメント/備考
インド	○	Mobility India（モビリティ・インドア）、National Association For Blind（インド視覚障害者協会）、Enable India（イネーブルインドア）、Mitra Jyothi（ミトラジョーティー）

インドネシア	○	障害者団体の運動が、あらゆる分野で障害者の権利の実現を提唱する上で多くの役割を担っている。また、障害者団体間のネットワークも非常に良好である。この問題に対するドナー機関の支援は、障害者の権利の実現に関連するアドボカシーの達成を強く後押ししている。しかし、その実施にはまだ多くの問題が残されている。
マレーシア	○	この問題について強く訴えている NGO や障害当事者団体がいくつもあり、マレーシア視覚障害者財団もその1つ。例えば、マレーシア保健省は、2023年3月までに点字ラベルのついた包装を導入する予定。この開発には、マレーシア視覚障害者財団が間接的に関与している。もうひとつの例は、すべての新しい建物で、点字ラベルと音声起動機能を備えたエレベーターの設置が義務付けられていること。
モンゴル	×	特になし
ネパール	×	特になし
パキスタン	×	特になし
フィリピン	○	Resources for the Blind, Physicians for Peace Walk and Work, ATRIEV, Davao Jubilee Foundation Tahanan Walang Hagdanan (House with No Steps International Deaf Education Association (IDEA), Philippines
シンガポール	○	多くの社会サービス機関は、産業界のパートナーと協力して、アイデアやユーザーの問題提起を行い、共通の商品やサービスに対する解決策を共同で作りに上げている。このようなプロジェクトに参加している団体は、シンガポール視覚障害者協会、シンガポールろう者協会、レインボーセンター、MINDS、SPD、HWA、脳卒中サポートステーション、筋ジストロフィー協会などである。
ベトナム	×	特になし

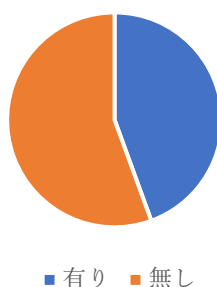
(2) 上記のA・Bの普及を行っている公的機関の有無



■ 有り ■ 無し

国名	有無	コメント/備考
インド	○	National Institute for Empowerment of Persons with Multiple Disabilities (国立重複障害者エンパワメント研究所), All India Institute of Speech & Hearing (全インド言語聴覚研究所), Spastic Society of Karnataka (カルナタカ痙性協会), Institute of Applied Cerebral Palsy (応用脳性麻痺研究所), Muskaan, Forum for Autism, Inspiration
インドネシア	○	多くの障害者団体が独自に、あるいは様々な機関と連携して、障害者の権利の実現に関連する研究や普及活動を行ってきた。しかし、検討結果の実施には、まだ多くの問題も残されている。
マレーシア	○	多くの関連団体は、講演、ソーシャルメディア、啓発プログラムなどを通じて、上記のAとBを常に推進している。
モンゴル	×	特になし
ネパール	×	特になし
パキスタン	×	特になし
フィリピン	○	National Council on Disability Affairs (フィリピン障害者問題審議会)
シンガポール	○	SG Enable と Design Singapore Council がある。前者はより障害者向けのデザインに重点を置いている。他にも、国家遺産局、国家図書館局、交通省、保健省、病院、診療所、高齢者が訪れるセンターなどで、サービスを障害者にやさしいものにして取り組み始めているところがある。
ベトナム	×	特になし

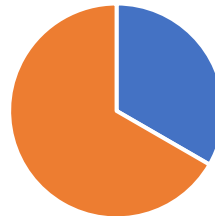
(3) 上記のA・Bの普及を行っている業界団体、個別企業・その他の有無



国名	有無	コメント/備考
インド	○	Nayi Disha、Action for Autism、APD、Mitra for Life、Biswa Gouri Charitable Trust、Parivar。
インドネシア	○	業界団体や個々の企業・その他で、上記のAやBを提唱しているところがある。しかし、あまり多くはない。
マレーシア	○	最近、商業界もアクセシブルな製品やサービスを提供するようになったが、まだまだ課題は多い。例えば、マレーシアの航空会社では、機内に点字の安全カードを導入している。
モンゴル	×	特になし
ネパール	×	特になし
パキスタン	×	特になし
フィリピン	×	特になし
シンガポール	○	Werables (インクルーシブ・クロージング)、Rehabit (リハビリット ジェームズ・ダイソン賞) など。他にも多くの事例があるが、ほとんどが若い学生たちによるもの。彼らの多くは、そのビジネスを市場投入の段階まで持ってきていない。
ベトナム	×	特になし

6.2.4 共用品・共用サービスを販売している団体の有無

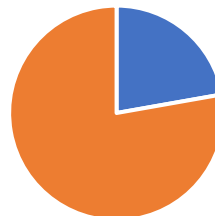
(1) 上記のA・Bを販売している障害者団体（視覚、聴覚、肢体不自由、他）・高齢者団体・NPOの有無



■ 有り ■ 無し

国名	有無	コメント/備考
インド	○	Atypical Advantage, Mitti Goods, Jhappi, Diya Innovation, Mobility India
インドネシア	×	特になし
マレーシア	×	はっきりしない
モンゴル	×	特になし
ネパール	×	特になし
パキスタン	×	特になし
フィリピン	○	House with No Steps
シンガポール	○	販売は主に生産者/デザインパートナーが行うため、積極的な方法ではない。ただし、社会福祉法人が施設内に商品を置き、会員に購入してもらうことはあり得る。
ベトナム	×	特になし

(2) 上記のA・Bを販売している公的機関の有無



■ 有り ■ 無し

国名	有無	コメント/備考
インド	○	特になし
インドネシア	×	特になし

マレーシア	○	少なくとも社会福祉局のある製品では、登録されたすべてのPWDに発行されるPWDsカードに明確なマークが付けられている。これは、視覚障害者がカードを持ったときに、この部分が右下にくるようにという意味で、カードの一角に鋭い切れ込みが入っている。
モンゴル	×	特になし
ネパール	×	特になし
パキスタン	×	特になし
フィリピン	×	特になし
シンガポール	×	繰り返しになるが、これらの機器の販売を主要なサービスの一環として行っている公的機関を私は知らない。販売するのは、主に生産者・設計者。例えば、ある病院と共同開発した製品を、病院が小さなスペースを提供して販売するようなケース。また、そのような製品を気軽に探せるようなワンストップのポータルサイトは存在しない。
ベトナム	×	特になし

(3) 上記のA・Bを販売している業界団体、個別企業・その他の有無



■ 有 ■ 無し

国名	有無	コメント/備考
インド	○	特になし
インドネシア	○	今までのところ私が知っているのは、業界団体、AやBを販売する個々の企業・他者、AやBを販売する大手企業、新しい技術を持つ電気製品企業のうち、すべての人に製品を考えている企業がないこと。
マレーシア	○	ロクシタンのシャンプー、ハンドローション、ボディシャンプーは、点字ラベルが貼られている。私がマレーシアで出会った中で最も優れたボトルパッケージの一つ。
モンゴル	×	特になし
ネパール	×	特になし
パキスタン	×	特になし

フィリピン	○	個人で販売している会社もあるが、名前は知らない。Shopee や Lazada などのオンラインプラットフォームで商品を購入することができる。
シンガポール	○	高齢者・障害者・車椅子ユーザー ARIAN
ベトナム	×	特になし

以上

6.3 スウェーデン調査

調査者

高橋良至（東洋大学ライフデザイン学部人間環境デザイン学科 教授）

調査国

スウェーデン王国

調査方法

現地での観察，インターネットを用いた調査

- ①現地の店舗における商品の観察
 - A. スーパーマーケット
 - B. 薬局
 - C. 福祉用具店
- ②公共交通における設備やサービスの観察
 - A. SL(ストックホルムス・ローカルトラフィック)
 - B. SJ (スウェーデン国鉄)
- ③スウェーデンの障害者団体等

調査期間

2021年10月から2022年9月の間

調査結果

原資料を6.3.1～6.3.4に記載

6.3.1 現地の店舗における商品の観察

A. スーパーマーケット

スウェーデンの乳製品大手、A r l a 社の牛乳のパッケージは、牛乳の脂肪分の違いを色で表している。3.0%を赤、1.5%を緑、0.5%を青として、さらにパッケージ下部の線の本数をそれぞれ変えており、色でも線の本数（太さ）でも区別ができるようになっている。屋根型のテトラパック容器だが、注ぎ口はパックの端を開くのではなく、屋根状になった部分にスクリーキャップがついた注ぎ口があり、子どもや高齢者など、手先の細かい作業が難しい人でも開けやすくなっている。ヨーグルトの容器も同じ容量（1000ml）と形状だが、牛乳より粘り気があるため、注ぎ口は大きめとなっており、キャップの大きさが異なるので、キャップを触れば牛乳とヨーグルトの区別ができる（キャップ側面のローレットも異なる）。ちなみに、日本にある「牛乳」を示す切り欠きはない。

コープ（C o o p）の自社ブランド品や、GARANT社のパッケージは、大きな文字や単純化したイラスト、カラフルな色使いになっており、品物や種類の違いが分かりやすいデザインになっている。

B. 薬局

スウェーデンの薬局（Apotek）は、処方箋や市販薬などを中心に扱っており、日本のドラッグストアのように、薬以外の化粧品や食品、日用品などは販売していない。薬局で扱われる商品のパッケージは非常にシンプルで、文字と抽象的な図形などのみのデザインが多い印象である。日本の「第二类医薬品」に相当する風邪薬などには、点字も表示されている。医薬品のパッケージデザインは、スウェーデン医療製品庁による承認が必要なことから、EUの規制やスウェーデン国内の条例による制約で、簡素になっているものと思われる。医薬品でない歯磨き粉などは、パッケージにイラストが描いてあるものもある。ほとんどのパッケージはスウェーデン語表記のみなので、症状や求める薬について薬剤師に相談する必要がある。副作用などのある薬を間違えて買わないように、専門的な知識を持つ人を介することは意味があるといえる。

apoteket (Klarabergsgatan 64 Stockholm Sweden)

<https://www.apoteket.se/>

C. 福祉用具店

ストックホルムには福祉用具を販売する店舗がいくつかある。ストックホルム中央駅に近い店舗（Varsam AB）では、ベッドや枕、調理道具からベッド、排泄関連、車いすやクッション、杖、片手で調理するためのまな板やびんのオープナーなどの福祉用具だけでなく、共用品と言えるような製品も扱っている。ベッドでも使えるクッション書見台、裏に滑り止めがある靴下、指に通して使う皮むき、食材を切った後に曲げてボウルなどに投入できる柔らかいまな板など、OXO、etac などスウェーデン製に限らず、日常生活の不便さを解消する道具などが揃っていた。

VARSAM (Kungsgatan 59 Stockholm Sweden)

D. デジタル決済

スウェーデンではキャッシュレス化が進んでおり、支払いの多くは非接触型キャッシュカードやデビットカードで行われている。カードは読み取り機に挿入せず、タッチするだけなので、手指や視覚に障害があり現金での支払いが困難な人には便利であるといえる。紙幣や硬貨を店舗で現金を使用するのは、一部の高齢者、低所得者、旅行者と見受けられる人で、ほとんど見かけることはなかった。また、スマートフォンから支払いを行うことができる、Swish と呼ばれる電子決済も使用することができる。手軽に口座間の送金が行えることから、個人の出店などは Swish での支払いしか受け付けないところが多かった。

Swish は、スマートフォンでアプリを立ち上げ、送金先の QR コードを読み取るか、口座番号(相手の電話番号)、取引金額を入力し、決済実行ボタンを押すと、BankID という認証アプリが自動的に立ち上がり、暗証番号の入力を求められる。承認されると、決済が行われたという画面が表示され効果音が出る。同時に、相手のスマートフォンにも決済情報が伝えられる。ユーザーインターフェースを上手に設計することで、デジタルへのアクセシビリティも高まると感じた。

6.3.2 公共交通における設備やサービスの観察

A. SL(ストックホルムス・ローカルトラフィック)

ストックホルムの公共交通には、地下鉄、バス、郊外電車、路面電車、ライトレール、船があり、これらはストックホルム県の公設株式会社、ストックホルムス・ローカルトラフィック (SL) が管理している。運行などのサービスは、Keolis や MTR Nordic など複数の会社に委託されている。

運賃は約 500 円均一で、1 回券を買って 90 分以内であれば乗り継ぎ、乗り降りが自由である。1 ヶ月や 3 ヶ月有効の乗り放題割引切符などが売られている。きっぷは IC カードやアプリで購入し、改札でカードをタッチするかスマートフォンのアプリで QR コードをかざす形式である。クレジットカードやデビットカードで、1 回券の購入も可能である。現金で切符を購入できるのは、市中心部の地下鉄 T-セントラーレン駅 (ストックホルム・シティ駅) の改札と、市中心部を走る路面電車の車内のみである。

すべての路線が SL の管轄下にあることから、案内表示などは統一されており分かりやすい。案内表示のデザインは、2018 年にプロダクトデザインの世界的な賞である Red dot Design Award の Best of the Best を受賞している。

地下鉄や通勤電車などのプラットフォームの端、階段などの段差の始まり、エスカレータの手前、エレベータの手前の床には、白いタイルが貼られており、周りの床とのコントラストで注意を伝えている。路上には誘導ブロックはほとんど設置されていないが、駅構内には誘導や警告のための棒状の突起が敷設してある。

バス停には、歩道の段差に沿って白いタイルが貼られており、周りとのコントラストでバス停があることを知らせている。バス停前方で白いタイルが T 字となり、交差部に黒い突起のあるタイルが貼られている。バスの乗車扉 (前扉) がそこに位置するようにバスが停車するので、視覚

障害者はその位置に立ってバスを待つ。

鉄道駅の改札、プラットホームには、日本と同様に次の列車の行き先や到着までの時間などの情報が表示されていて、時々読み上げがされる。車内では、次の停車駅や乗り換え案内などの表示があり、自動音声でも読み上げされる。またアナウンスの前にはチャイムやブザー音が鳴り注意を惹くことで、聞き逃しにくくなる工夫がされている。音声は基本的にスウェーデン語のみであり、アーランダ国際空港への乗り換え案内や、ストックホルム・シティ駅での降車案内などでは英語の案内もある。駅名やバス停名は、日本のように英語で読み上げ直すことはない。現地での呼び方で十分という判断だと考えられる。アナウンスのタイミングに合わせて、車内の情報表示も変わる。ドア閉めのときには、注意のブザーと同時にドア上にある赤色のランプが点灯し、視覚でも聴覚でもドア閉めが分かるようになっている。最新の地下鉄車両では、ドアの上部が帯状に光り、開く前は緑、閉まる前は赤く光ることで開く側のドアの案内、ドアが閉まる注意がされている。

バス停は、標識のみ、あるいは、ガラス張りの待合所が設けられている。標識のみの場合でも、市中心部であれば行き先と到着時間の案内が設置されていることも多い。ボタン（点字あり）を押すと、案内の内容を読み上げる。バス車内前方には、行き先や停留所案内表示があり、次の停留所を音声とともに案内する。停車ボタンが押されると、ベルやブザーと同時に STOP 表示もされる。表示器にはドット LED も用いられているが、近年は液晶ディスプレイが用いられ見やすくなっている。表示は日本と異なりグラデーションなどの装飾がなく、他言語表記も少ないため、文字も大きくシンプルで見やすい印象を受けた。

B. SJ（スウェーデン国鉄）

スウェーデン国内の主要鉄道路線は、公設の株式会社である SJ（Statens Järnvägar AB）により運営されている。

駅などの案内表示は、黒地に白が基本でありシンプルで読みやすい。ほとんどの駅では、入り口付近に駅の構造がわかる大型の触地図が設置されている。また、支援が必要な人のためのミーティングポイントの目印があり、そこには椅子が設置されていることが多い。プラットフォームまでのアクセスは、スロープ、エスカレータ、エレベータなどで保障されている。

プラットフォームの高さが客車の入り口に合わせてあることから、多くの場合乗降のためにステップを昇降する必要がある。そのため、大きな荷物を持つ人や高齢者が乗り降りに難儀する様子をよく目にする。駅スタッフや車掌が乗降に目を配っているので、必要に応じて手助けをしている。また、車いす使用者は、車両に据え付けられたリフトでデッキを昇降する。各駅にも大型のリフトが用意されている。近年は X40 などの低床車両が導入されており、乗降がしやすくなっている。

6.3.3 スウェーデンの障害者団体等

-MFD: Myndigheten för delaktighet (Swedish Agency for Participation)

<https://www.mfd.se/other-languages/>

かつて、スウェーデンでリハビリテーション工学や障害者支援に関する研究などの取り組みを

行っていた公的な研究機関である Handicap Institutet (Swedish Handicap Institute) は、省庁再編にあたり統合整理され、現在はない。そのうちの、社会参加に関する研究や支援等が、この社会参加庁に引き継がれた。

-Hjälpmedelsinstitutet

<https://www.hi.se/>

2014年に解散した、Handicap Institutet のアカウントを使用して、福祉工学に関する情報を提供しているホームページ。元関係者が運用している様子。

-Independent Living Institute

<https://www.independentliving.org/>

障害者の選択の自由、自己決定、尊厳のための、消費者主導型の政策開発を行う政策開発センター。NPO。近年の活動は以下の通り。

- ・障害のある難民を受け入れる取り組み
障害のある難民の受け入れ、特に就業支援
- ・バーチャル・フルテキスト・ライブラリー
自立生活や個々の支援、反差別法、ユニバーサルデザイン（誰もが使える建築、コミュニケーション、交通手段など）、トレーニングマニュアルなどの関連テーマに関する文書のデータ化と公開
- ・Assistanskoll
介助者、その家族らが介助者を選択する際に、情報や分析を提供し、助言するサービス。
- ・障害者オンブズマン報告サービス
障害者差別を行う企業などを障害者オンブズマン事務局に報告するシステム

-ASSISTIVE TECHNOLOGY GROUP (Hjälpmedelsteknik Sverige)

<https://assistivetechnologygroup.eu/>

福祉サービス企業。販売と製品開発を行う部門（会社）で構成される。

- ・KEEPON
福祉機器オンラインショップ
- ・EURO WEARABLE
高齢者らのための外骨格形パワードスーツの開発
- ・JCM ELEKTRONIK
障害者のための移動機構（AKKA）の開発

-Myndigheten för delaktighet

<https://www.mfd.se/>

社会参加庁。福祉技術研究所（HI）から業務を引き継いだ。障害者の社会参加の支援を行う。知見の発信など。

6.3.4 資料写真



A r l a 社の牛乳のパッケージ。赤が脂肪分 3.0%、緑が 1.5%。さらにパッケージ下部の線の本数（このパッケージは牛のイラストで隠れている）をそれぞれ変えており、色でも線の本数（太さ）でも区別ができるようになっている。



スーパー（Hemköp）のオリーブオイルの棚。中央の青とピンク地に OLIV OLJA（オリーブオイル）の文字が書いてあるもの品が、GARANT 社の商品。文字のみで、多くは中身が見えるパッケージになっている。



スーパー（COOP）のお茶の棚。中央が自社ブランドの商品。右側の緑のパッケージは緑茶、それ以外は紅茶。小さい字で書いてある。デザインされた大きな字で書かれているのは、お茶の味（フレーバー）。例えば緑茶のパッケージにはバニラ（VANJL）と書かれている。



薬局（Apotek）の棚。Paracetamol はアセトアミノフェンで解熱剤。医薬品であるため、パッケージには点字も表示されている。医薬品は、文字と抽象的な図形などのみのデザインが多い印象。



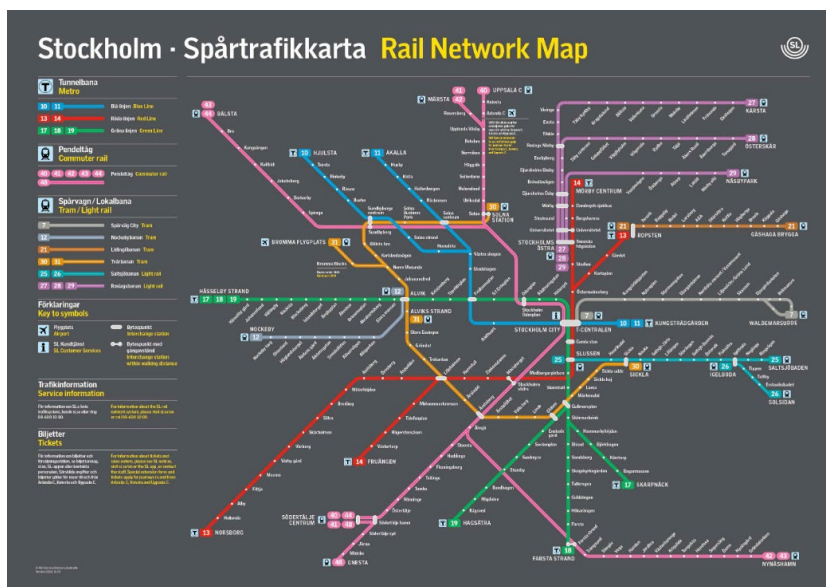
福祉用具店（Varsam AB）にあった、ベッドなど不安定な場所でも使えるクッション書見台。この福祉用具店は、一通りの福祉用具が揃っており、子供の遊具もある。



Swish での支払いは、左の図のように提示されている QR コードを読み取るか、口座番号（相手の電話番号）を入力し、取引金額を入力する。右の図は、Swish の初期画面。QR コードを読み取る場合は、「Scan QR」をタップしてカメラを立ち上げる。



地下鉄 Tekniska Högskolan 駅のプラットフォーム。床面ホーム端の白いタイル、その手前に視覚障害者用の突起が見える。行き先表示は大型のカラー液晶パネルで、SL のアクセシビリティ担当者によると、これは試験的に導入されているものらしい。直下を通るとセンサが反応して、表示内容を読み上げる。左側壁面には統一された駅名などの案内パネルがある。デザインの変更に伴うパネル等の更新は未だ途中である。



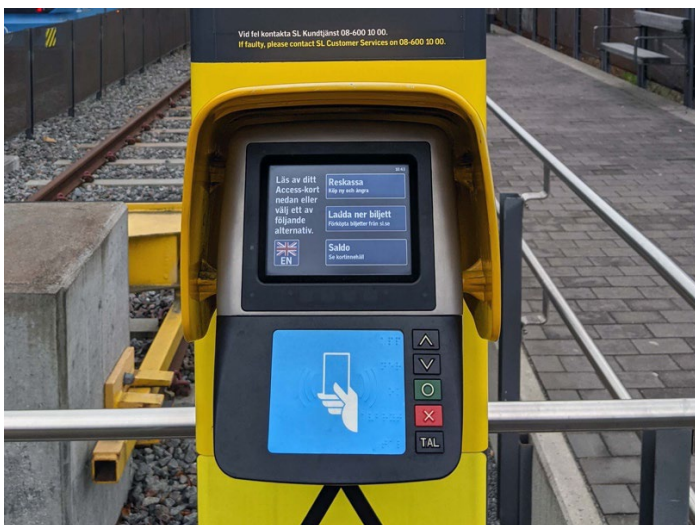
ストックホルムの地下鉄、路面電車、ライトレール、通勤電車の路線図。このデザインは濃いグレー地に、スウェーデン語は白色、英語は黄色で表示される。ピクトグラムも統一されており、デザインがルール化されている。

https://mitt.sl.se/ficktid/karta/vinter/SL_Sp%C3%A5rtrafik.pdf



屋根、風除とベンチのあるバス停の例。歩道に沿って白いタイルがあり、乗降口が位置するところに凹凸がある黒いタイルがある。ベンチからそのまま立って歩き出ると、乗降口にたどり着ける。

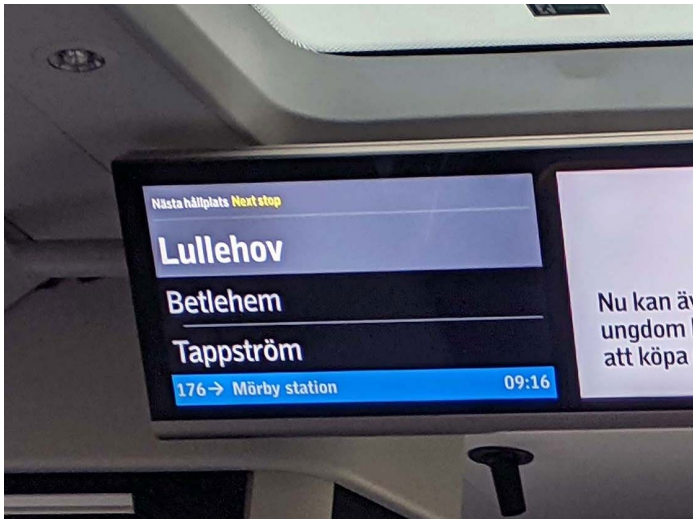
歩道は段差があり、バスが正着してニーリングすると、乗降口床面との段差がかなり小さくなる。日本の場合は、バスはニーリングするが正着しない（路肩に寄せない）ので、一旦車道に降りて、さらに高い位置にある乗降口に登らなければならない。



路面電車やライトレールの無人駅に設置されている、チケットを有効化する機械。現在は使われていないが、この開発には当事者も参加して、ボタンの操作性やタッチパネル画面の入力のしやすさ、メニューの構成などについて検討されている。



地下鉄新型車両 C30。次の停車駅で開くドア、停車時にドアが開いているとき、ドア上部のLEDが緑色に点灯する。閉まるときには赤色になる。



バスの前方に設置（連接車の場合は後方にも設置）されている、液晶パネルの行き先表示。市中心部の多くの路線では、まだドットLEDが使用されている。最下段、青地に白い文字で路線番号と行き先、時刻。最上段に次のバス停、その次のバス停と表示されている。グラデーションやアニメーションの表示がなく、英語表記も (Next stop) のみなので、すっきりしていて読みやすい。



SJ ストックホルム中央駅の、要支援者ミーティングポイントの案内。SL と同様に、白抜き文字はスウェーデン語、黄色の文字は英語になっている。文字はエンボス加工されており、その下に点字もある。パネルは触りやすいように傾斜がつけられ、低い位置にある。この上には背の高い看板がある。このパネルまで、床面には誘導用のタイルがある。



SJ リンショーピン駅にある駅の触地図と発着案内。ここまで、床面には誘導用のタイルがある。触地図の向きは、実際の駅のレイアウトと同じ方向となっている。発着案内の下にある黄色いボックスのスイッチを押すと、出発、到着、その他情報の音声案内を聞くことができる。



SJ ヨーテボリ駅の構内。前方上に列車乗り場などの案内がある。黒地に白抜き文字、ピクトグラム、矢印は黄色と、デザインが統一されている。

以上

本件についての問い合わせ先

『共用品・共用サービス国際調査 報告書』

2023年3月

〒101-0064 東京都千代田区神田猿樂町 2-5-4

発行：公益財団法人共用品推進機構

電話：03-5280-0020／ファックス：03-5280-2373